



佐渡アイランド集落ツーリズム構想について

三度のメシより佐渡が好き！！ 佐渡アイランド集落ツーリズム研究会 室岡ひろし

佐渡の農山漁村の生業を大切にし、
集落でかけがえのない時を過ごす
人と人とが繋がっていく世界観



【出典】集落のプロモーションビデオのたたき台（制作：スタジオマクワンカ）

▼修士論文『佐渡らしさの発見とその伝え方』①

“佐渡らしさ”の発見とその伝え方

東京理科大学工学研究科超学専攻視覚研究室 室岡 啓史
aroll11@hotmail.com

1. 研究背景および目的

日本という国は、古来より極めて稀有な日本人としてのアイデンティティ“らしさ”を生み出し、継々と受け継いできた。武士道精神・住び慣ひの心・八百萬の信仰・母国中心意識などといった独特の日本文化は世界的に見ても中東部である。現代におけるグローバル化の中で失われつつあるこの精神性＝“日本らしさ”を大切にしたい。くしくも藤原正喜の“国家の基骨”がベストセラーになり國のあり方に對する意識が高まり、また安倍内閣は“美しい国づくり”を旗印その政策が理解されている。

本研究は、そういった本質の“日本らしさ”の一つと選りこぎることができる“伝統的な集落内に生きたる”という現象を見つめ直し、恒久的な集落コミュニティの維持・集落景観の保全を可能とする手法を創出することを目指す。江戸時代に生きた尾花芭蕉が“美の源流”において“源白の思ひやまず”と記すように、“源初め”や“はかなさ”といった日本人の持つ精神の感性が存在する。そういった思想の現代における生きかたへの投影について考えることに興味がある。“日本らしさ”を大切にすること、生きかたを研究する視座をアースとして佐渡ヶ島を選定した。それは、私の自身の出身地という個人的事情であることのみならず、佐渡ヶ島が“日本の縮図”と形容されていることによる。

2. 調査概要

調査では、佐渡ヶ島で暮らす人々に対してヒアリングインタビュー（佐渡ヶ島の島知事・日本の暮らしがより・権威に対する意識・自己と人の繋がりなどについて）や住み慣れた集落調査を行った。これは集落で暮らす人々の生きた声から佐渡ヶ島の現状を把握し、今後の展開へと生かすためである。調査対象者は、“佐渡ヶ島で楽しく暮らす人”を条件に、主に人づてにマウリンドリストを活用して募った（偶然の出逢いによる協力も含まれる）。調査は2006年4月20日～5月6日と2006年7月16日～9月3日の期間に行った。調査範囲は全島とし、島内を自動車で移動して基本的に対象者の住み慣れた集落を行った。協力者は島内出身者21名、島外出身者25名の計46名である。島内出身者のみならず、島外出身者を対象として加えたのは、生い立ちや境遇の異なる人々の相対的評価をするためである。

また、調査の一環として5月9日、9月30日～10月1日、12月30日～1月22日の3回に分けてワーケーション企画・開催し、参加者へのアンケート調査も行った。

3. “佐渡らしさ”の発見（集落を見る）（図1～図4）

インタビューの中から得られた“佐渡らしさ”の要素を抽出する。①日本の諸島の中で最大である（沖津本島を除く）。②縦長の南・北端とされる北緯38°線が島の中央を通過していることにより1700種もの植物種をもつ（注：近畿島の植物種は1370種）。③南北方向に伸びる島二山型の地形により山頂部に多種植が生じ、また時間距離（移動に要する時間と距離の関係）が複雑化する。④思想起源の遠慮地・佐渡金山の聖域・北端の集落といった、島外からの人の流入が日常化したきた歴史をもつ。⑤全島の1/3にも上る3つの純粋な神社に併置されたが現存する。赤尾神社・佐渡おきき・又新八郎といった伝説的伝説が受け継がれ保存されている。⑥自然的記念物であるトキの野生産地と興じて集落が盛み、生き残り集落を可能とする環境保全型集落への転換が盛んでいる。⑦島外部における種が盛み人だけでなく海・山の恵を享受できることから、およそ60万人分の食料確保が可能とされる。伊江戸・京都・西日本の影響により島内に異なる方言をもつ（共通の方言としては図2と参照）。

しかもながら調査を通して最も強く感じた“佐渡らしさ”として、⑧多様な集落および種地帯がコンパクトに凝縮されている。という重要な要素があると考え、なお、①～⑧の要素をもつて“日本の縮図”と置かれる所以であると結論付ける。

3.1 佐渡ヶ島の集落形態（図5～図8）

集落単位は、自然村としての集落と現在の行政区分を基礎として、生活や立地・環境形態から、漁村・集落村・種地村・半島集落村・山村・新興村の7つに分類できる。集落とは、一つの水系のある環境に発生する共同体と考える。集落単位は水と平地であり、生活のためには水が欠かせないため、水の確保が容易な川沿いを基本としながら、比較的平坦な場所に集落が発生している。特に伸び集落形態が顕著である。

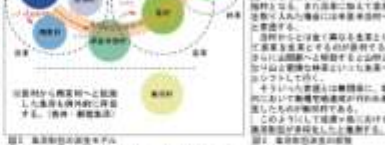


図1 佐渡ヶ島における集落形態の分布

3.2 佐渡ヶ島における各集落形態の分析（図9）

3.1で分類した各集落形態が、佐渡ヶ島においてどのように分布しているかを見てみる。
①集落の総数である漁村は数少ない。南津・相川・佐和田・小木といった昔から栄えている地域に漁集村が多く見られる。種地村は狭帯木だけである。
②半島集落は全島の海岸線に沿ってほぼ連続して存在する。加茂海岸の側面は、集落だけではなく水産も盛んに行っているため、海に面していても半島集落と分類される。
③山村は国許野原全域に広がっている。島内のほとんどはこれらの集落から生産されているといえる。小佐渡の南西部にも多く見られる。山村は小佐渡に存在する。（大佐渡の山には集落は存在しない）

④本研究の分類においては、漁村4、種地村1、半島集落村1、山村1、新興村1の合計32の集落となった。

3.3 集落形態の差異による建築物の典型配置（図10）

3.1で分類し、3.2で島内の分布を示した集落を、実地調査によって得られた具体的な集落における集落の配置に関して分類して視化する。

①漁・種地村・種地村 各住戸が海岸に接していることで成立している。これは、各々が所有する船が、海に面していることが保管できることや閉居の広さに比例して敷金が高額となるという集落の制度としての形態という歴史的背景が多い。
②半島集落村 障子が集落でもないが山村のように閉居ともしない集落が多い。こういった集落では、柱間と納屋・蔵が平行配置となる場合が多い。

③山村 集落と農道に納屋・蔵が隣接しているのが一般的である。これは集落からのアクセスの容易さ、移動距離の短さといった理由のみならず、かつては例外的に一般的であった畜舎が畜舎にさらされるという防犯上の理由もあり、畜舎型の配置構成になったという数もある。

種地率（敷地面積に対する種地面積の割合）について分析を行うと、最大で70.2%、最小で21.2%とかなりの開きがあることが分かった。“佐渡ヶ島”という大きな島端みでは開きがないほどの密度の差異が存在している。

以上のように集落形態の多様化と建築物の配置の変化には相関があり、種地率の異なる敷地にゆとりがあればある種、柱間・納屋・蔵が最適化の構成へと変遷していくことが分かる。

4. ワークショップの実施（集落を語る）（図11～図17）

島内外の人々が知り合いの集落を見学する（図11）ことで、佐渡ヶ島の魅力を発信し、その人にとっての大切な集落として位置づけられる可能性を見出すためにワークショップのワークショップを企画・開催した。（図11）

2006年の1年間で本研究のワークショップ参加と結果の集約として延べ300人以上が参加した。アンケートの結果について以下に示す。

“こいつは佐渡ヶ島”は調査対象者の水田と敷地を活用して行った。開墾から15年の知人を招き田植え・新穀リ・レクチャーを行い、生きたことを再考する機会とした。レクチャーは島内参加者もあり、30人を超えた。図は⑧より集落の佐渡ヶ島のイメージはあり見やすいものであったが、集落は3割以上の方が良いイメージと評価している。開墾集落村においての滞在延長イメージが大きいことが分かった。また3割以上の方が島の魅力として活用を希望しており、再来島も5年以内の希望が半数を超えていることから“移住とはいかないまでもまた行きたい場所”として参加者には受け入れられたことが分かる。島外の人々に対しては佐渡ヶ島や地方についての関心が多々、単なる集落見学機会としてではない意義を改善する手段としてのワークショップの可能性を示している。“さびつつも佐渡ヶ島”では、最も集落の集落を巡り度や集落家での滞在を希望した。島内外から10人以上の参加があり交流の場とすることができた。さびた島も島内の集落と知り未知の佐渡の魅力をそれぞれに発見した結果となった。このようにワークショップ形式で集落を語ることに、佐渡らしさを島内外の人へと伝えることが可能であることが分かった。

4.1 生きかたの実態（集落に住む）（図18～図20）

図18よりヒアリング・インタビュー対象者のデータを示す。協力者は、結果として80代男性が最も多かった。また、図19より50代以上はさびた島が多々、たびの島人のほうが相対的に多かった。図20より、商業村にはさびた島の人々の居住者が多く山村や山村にたびの島人が居住していることが分かる。

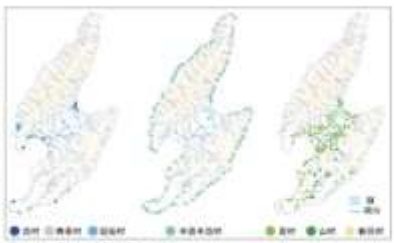


図1 佐渡ヶ島における集落形態の分布

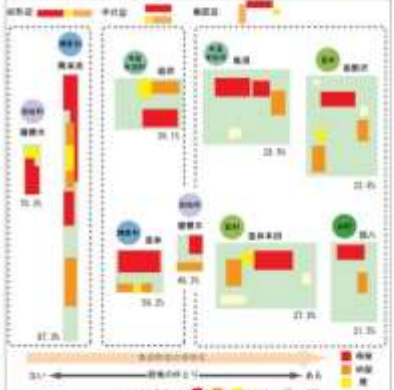


図10 集落形態の差異による建築物の典型配置

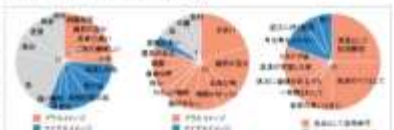
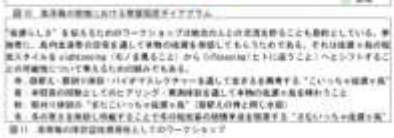


図11 集落を語るワークショップの実施

5. 1 職業・住居層 (表1)

表1は、調査対象者の一覧である。さどのもんは高校卒業後に島を出る機会が多いが、対象者は平均29歳で専業主婦という結果となった。大学・就職を含めて10年ほど島外で過ごす傾向があると言える。また、たびのもんは平均33歳で移住しており、決してタイアップ後の年齢を過ぎず場所としての移住ではないことが分かった。

職業に関しては、さどのもんは家庭を営んでいる場合が大半で多く、たびのもんに関してはNPプロスタッフや自営業を営んでいる傾向にあることが分かった。

住居在任層 (住居層) に関しては、さどのもんの平均が3.8年、たびのもんの平均が9年という結果となり、半数としては4年以上の滞在があることが分かった。

5. 2 移住・定住の理由 (図21)

佐渡へ島における住居の理由として最も多かったのは、佐渡の環境に魅力を感じたということであった。島外からの移住としての最大の理由である。さどのもんは長男・あるいは自分の世代であるという思い立ちにより存在している傾向がやはり強い。出身の郷土によって、受けられる待遇が大きく異なる。

5. 3 敷地における合理的な構造 (図22)

図22は、4年前後に築築8人での事例から佐渡へ島の農村集落へと移住した。たびのもんの事例 (T-11・T-12) である。従事300m以内にも水田・畑も確保している。また、敷地内には多くの建物が実在している。これらは自然発生したものもあるが、人為的に育てられているものも少なくない。必要のために存在している建物の一掃を許さずには行かない。①スズキの冷たい北風を遮るための防風林、住宅の建材、またスズキは乾燥させて薪ストーブなどの着火剤として活用する。②ヒノキ: 玄関先に植えることと腐蝕防止効果がよいとされる。③ドリ: 湿気などでの防湿として活用されてきた。④アサギ: 真からアサギが採れる。⑤シノブ: セウソクアサギ: 古くからの材料で壁の強化材としての竹小舞に活用される。⑥アサギ: ヒノキの一種であり、大黒柱などの建材に使用される。⑦ツバキ: 薪の一種であり、古くから使われてきた。

以上挙げたように、先祖が作り上げた意味ある環境の恩恵をそのまま享受しながら暮らしている確実な事例である。

5. 4 漁村系と農村系の伝統的な平面構成 (図23)

住居における古民家の特徴を挙げる。①オマズ (オマズ・オマズ) という、天井高3.5m前後もある気候の大きな空間が存在する。その空間は、季節として使用されたり、伝統行事におけるハレの空間として活用されてきた。②畳床には畳敷瓦といわれる黒色光沢のある瓦が一般的に使用されており、真夏には日光によって美しく輝く。③島内の古民家は増築型がほとんどを占める。④漁村系の住宅はトリアーといわれる公共空間が各住戸に専ら、縁取の平面構成となっている。

5. 5 古民家半再生 (図24)

古民家半再生は従来の「家の作りやうは、夏をむねとすべし」と語られている。つまり、古民家は夏の暑さを凌ぐことが最優先であるために気密性が低く、真冬は過ごしやすいという短所を持っているのである。古民家を所有する対象者 (10事例) のうち、古民家再生として大掛かりな改築をしたケースが3事例であった。しかし、それとは異なり、住みながら少しずつ改築を進めている事例も存在した。本研究ではそれを「古民家半再生」と名付け、季節の住み分けと改築の手段と可能性について以下に述べる。(事例T-11・T-12)

①家の一面において断熱化を行い、冬は基本的にその空間で過ごす。冬は断熱的に暮らす。つまり、「夏は広く住む、冬は狭く住む」ということである。②時間と資金の余裕をつくりながら、改築工事として、家の中の仕事空間など使用頻度の高い空間にさらなる断熱化工事を行い、冬の活動領域を広げている。すなわち、「夏は広く住む、冬も広く住む」ということである。③大工との繋がりによって技術の伝達が行われることや自作作業により低予算で改築が可能となる。

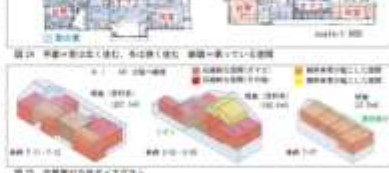
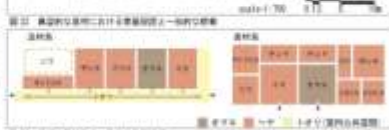
このように最低限の改築によって、日常の生活として伝統的な環境および景観を保全することが可能になると言える。

5. 6 覆っている空間 (図25)

佐渡へ島における空間の数は1170戸以上と書かれている。また、母屋のみならず納屋や裏といった副建物における居住層間としての可能性が大きいとされる。一概に、島内では母屋は雑草が納屋・庫・小畑は現状を維持する機会が多い。そのため、貴重な古材が使用された魅力が顕著していると言えよう。そういった古民家の潜在能力を引き出している事例を調査に準じ、古民家活用キーワードとして位置づける。

表1: 対象者の属性一覧表

対象者ID	性別	年齢	職業	移住年数	移住理由
1	男	31	自営業	3	環境の魅力
2	女	28	専業主婦	2	環境の魅力
3	男	33	NPプロスタッフ	1	環境の魅力
4	女	29	専業主婦	4	環境の魅力
5	男	35	自営業	5	環境の魅力
6	女	32	専業主婦	3	環境の魅力
7	男	30	自営業	2	環境の魅力
8	女	27	専業主婦	1	環境の魅力
9	男	34	自営業	4	環境の魅力
10	女	31	専業主婦	2	環境の魅力
11	男	32	自営業	3	環境の魅力
12	女	29	専業主婦	1	環境の魅力
13	男	33	自営業	4	環境の魅力
14	女	30	専業主婦	2	環境の魅力
15	男	31	自営業	3	環境の魅力
16	女	28	専業主婦	1	環境の魅力
17	男	34	自営業	4	環境の魅力
18	女	31	専業主婦	2	環境の魅力
19	男	32	自営業	3	環境の魅力
20	女	29	専業主婦	1	環境の魅力
21	男	33	自営業	4	環境の魅力
22	女	30	専業主婦	2	環境の魅力
23	男	31	自営業	3	環境の魅力
24	女	28	専業主婦	1	環境の魅力
25	男	34	自営業	4	環境の魅力
26	女	31	専業主婦	2	環境の魅力
27	男	32	自営業	3	環境の魅力
28	女	29	専業主婦	1	環境の魅力
29	男	33	自営業	4	環境の魅力
30	女	30	専業主婦	2	環境の魅力



6. 人の繋がりについて (集落と繋がる) (図26-27)

集落と繋がる事例の概要として、佐渡へ島における人と人との繋がりがどのように形成されているのかについて明らかにする必要がある。そこで、対象者に対して日常においてどのような人・コミュニティとの関わりを持ちながら生活しているのかについてヒアリング調査を行った。主にさどのもん・たびのもん・島外系・島内系コミュニティ・島外系コミュニティの分類によって各個人がどのような繋がりを持っているのかについて考察する。図27より、集落との繋がりが強い「集落繋がり」から島外系との繋がりが強い「島外系繋がり」まで様々なタイプが存在していることが明らかになった。

6. 1 さどのもんとたびのもんの繋がりに関する

個人は、お郡町の標高300m級の山頂に位置する集落である。さどのもん8世帯13人・たびのもん7世帯18人、合計15世帯31人の小規模な集落である (一軒家あたり平均で2人)。住まいに関して、たびのもんは既存集落を利用しているのが3世帯 (3世帯)・大工+居住者が建築して住んでいるのが3世帯 (4世帯) さらに島内からもう1世帯の移住予定がある。建設中である。この諸人集落では半数以上を占めるたびのもんが移住しているのに対して調査を行ったところ以上の3つの集落が浮かび上がってきた。

①人としての繋がりが強いこと。個人は在の個人夫妻 (T-10) 今田伸野の民衆 (T-09・T-10) といった人物によって個人が繋がりを築いたためであることが分かった。

②便利な山村であること。図30に示しているのは自動車を使用した場合における個人から島内への移動時間経路である (中心系から各地へ向かう方向と所要時間が経路を持つ図)。これより山村であるにも関わらず、金井の市街地、佐和田の書店、松川の官公庁、阿津の船着場、小木の船着場などへ移動が容易であることが分かった。このことから山村であるにも関わらず、利便性の高い集落であると言える。

このことから佐渡へ島においては人里離れた山村エリアにおいて移住が増加しているという現象が起きていることが分かった。この流れを先述の図5で説明することができる。図29より、移住可能性については集落の発生と関連のペクトルが存在していると思定できる。(インテグレーションから漁村系は、関連と物理的距離の距離が近く、漁業関係が強い集落系を傾向していることが分かった。) また、調査対象者所属集落層分層においても島山村への移住者が多いことが分かった。

山村や農村系は移住者にとっての受け皿として有効な集落なのである。大野島が名付けた漁村系層は、他の地方と同じように佐渡へ島にも存在するであろう。それらは今後、荒廃を持つのではなく、無学無識として残存させる必要がある。そのためたびのもんの移住受け入れ先として活用することで相補関係が構築可能であると考える。

6. 2 役割分担 (図31・32)

佐渡へ島は「日本らしさ」の一つである集落で構えることができる。さどのもん・たびのもんが共存する佐渡へ島においては島外系への食料供給の必要性が深刻になりつつある。さどのもん・たびのもん関わり存在する繋がりを多様にもつての存在をさど・たびのもん文字づつで「さど・たびのもん」と名付けている。さど・たびのもんには集落と島外系をつなぐ役割が担われている。そして先述から受け継いだあたりまえの生産を守り続けてきたさどのもんにはその生産をこれらも守り、島内側の集落に対して伝える必要がある。どちらが担うか佐渡へ島における島外系との成功はあり得ない。

7. 地域再生について (集落を話そう!)

3〜6まで述べてきたように、佐渡へ島の集落は相対性が面白い。そこで、それらを活用する新しい集落の過ごし方として「佐渡へ島集落ファミリー」を構築する。5.5をおよび5.6で述べた手法を用いて各集落の空いている古民家や納屋を有効に活用するための「集落の家」として誰かが集まる場所とするのである。それらがネットワークとして繋がりあがるという行為の中で「佐渡らしさ」を大別して語り継いでいくのである。

8. まとめ

本研究において、集落の多様性という「佐渡らしさ」を発見した。そして「集落の家」においてその魅力を人と人を介して島内外へと伝えることによって集落のコミュニティや集落の維持が行われ得ると考える。そして今後、佐渡へ島を日本のモデルとして位置づけていくことにより、「佐渡の伝統」ということにはなる日本の「日本らしさ」を多面的に語り継いでいくことが可能となるのではないだろうか。



図27 繋がりの関係による集落層分層

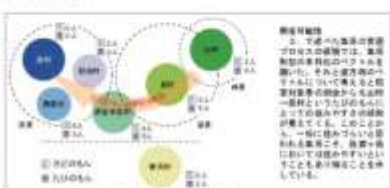
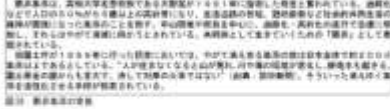


図29 集落系層の発生と関連のペクトルから漁村系の発生傾向

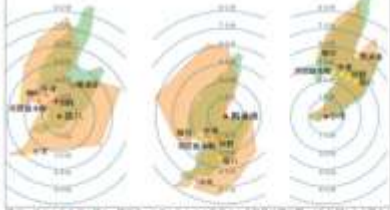


図30 従来の集落層 (個人) 漁村系 (個人) からの集落系層 (個人) の発生傾向



図31 移住者による集落再生と島外系層の発生傾向

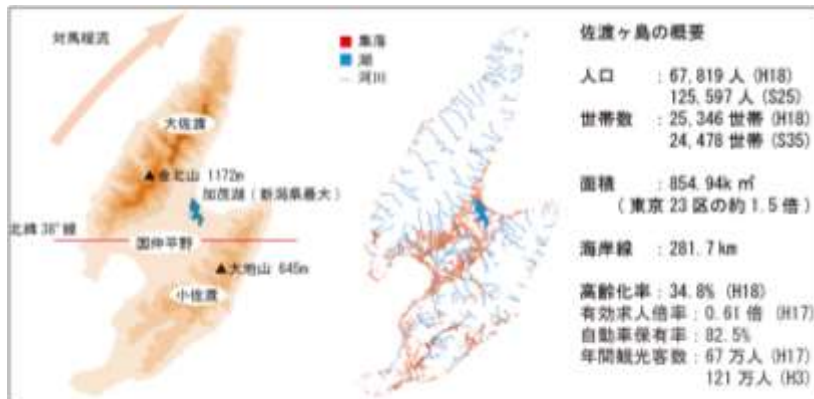


図1 佐渡ヶ島の概要



図31 1カンの寿司に見立てた集落の構成モデル



図11 特上握りに見立てた佐渡ヶ島の構成モデル

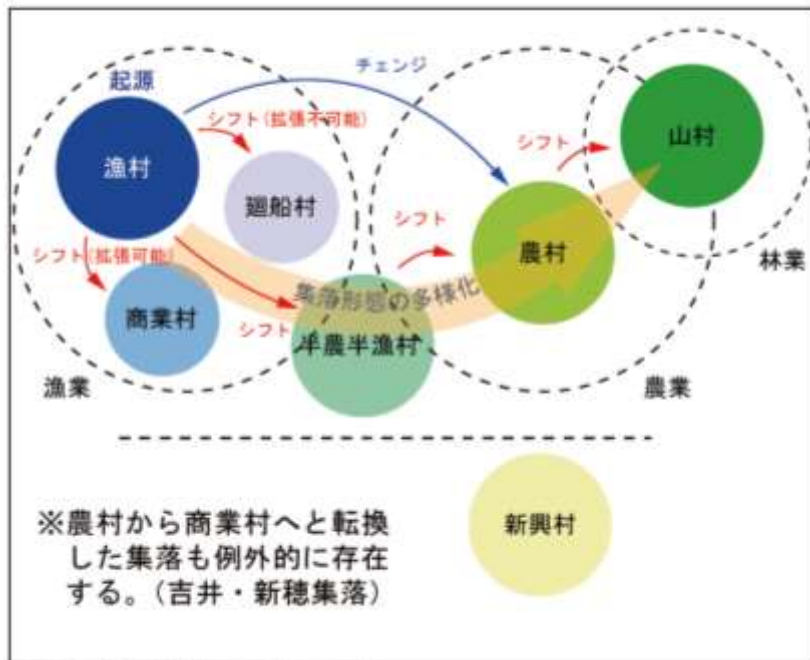


図5 集落形態の派生モデル

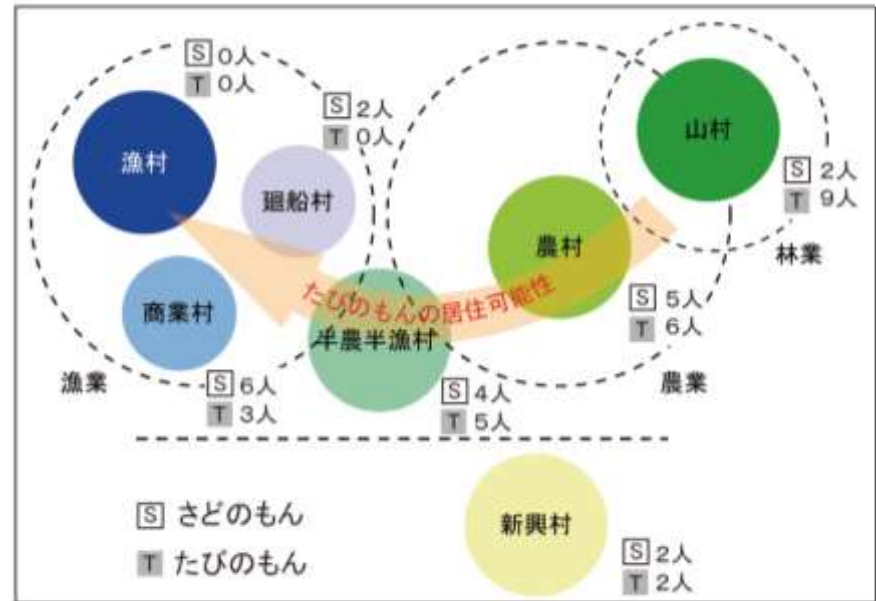


図29 調査対象者の所属集落分類とたびのものの居住可能性

▼集落のチカラは、佐渡のチカラ！！！！



集落のチカラは、 佐渡のチカラ!!!

多様な集落が生き活きと輝く佐渡を実現します!!

- 1 集落ツーリズムによる雇用創出
- 2 佐渡の玄関口整備による観光振興
- 3 島内交通インフラの整備による産業振興



▼佐渡の魅力 10項目 チェックリスト ⇒ 知っている：✓ 知らなかった：？

- ①日本の離島の中で最大である。（沖縄本島を除く）
- ②植生の南・北限とされる北緯38°線が島の中央を通過していることにより1700種もの植物相をもつ。
（cf. 屋久島の植物相は1370種、佐渡は長崎県と同程度の1700種）
- ③南北方向に伸びる一島二山型の地形により気候に多様性が生じ、
また時間距離（移動に要する時間と距離の関係）が複雑化する。
- ④思想犯の遠流地・佐渡金山の繁栄・北前船の来航といった、島外からの人の流入が日常化してきた歴史をもつ。
- ⑤全国の1/3にも上る32の能舞台が神社に併設されながら現存する。
- ⑥鬼太鼓・能・佐渡おけさ・文弥人形・春駒・花笠踊りといった伝統芸能が受け継がれ保存されている。
- ⑦特別天然記念物であるトキとの共生に意欲的で、生息環境改善を可能とする環境保全型農業への転換が進んでいる。
- ⑧平野部における稲作が盛んなだけでなく海・山の幸を享受できることから、およそ60万人分の食料確保が可能とされる。
- ⑨江戸・京都・西日本の影響により島内に異なる方言をもつ。
- ⑩多様な集落および建築形態がコンパクトに凝縮されている。

／10

▼ 『佐渡アイランド集落ツーリズム』構想の実現

佐渡の集落は多様で個性豊かで素晴らしい！
生き活きと暮らせる集落づくりを実現します！



佐渡の集落を守り、輝かせる！！

↓ 限界集落も増え、待ったなしの状況です。
その解決のためには・・・

『佐渡アイランド集落ツーリズム』構想

↓ 佐渡の集落を電気自動車で巡る新しい観光。
ストーリーのある旅づくりを構築。※①

『佐渡アイランド情報化大作戦』

↓ 地域おこし協力隊の仲立ちによって、
集落の方から佐渡の小中高生、Uターン者へ
集落の魅力を教えていただく機会を創出。

ITで『佐渡の集落多様性』を世界に誇る

↓ 一人ひとりが集約した情報は多言語対応の
WEBサイトを制作し世界中に発信します。※②

佐渡の集落の守り人『佐渡人』の育成

佐渡を大切に思う心と生活できる懐のある
『佐渡人』を集落の守り人として育てます。

『集落環境・景観を守るルール』づくり

古民家再生、利活用による受入体制構築

一社一村運動、CSR、『生き方の博物館』

『食とエネルギーの地産地消』を目指す！

集落内の地域教育、観光振興、雇用創出
(コミュニティスクール=みんなの学校) (生業ハローワーク)

『子育て¥0の島づくり』を目指す！

Uターン、孫ターン促進、交流人口増大

▼ 『佐渡アイランド集落ツーリズム』のイメージ

 室岡ひろしさんが写真14件を追加しました。
2月19日 20:29

宿根木

佐渡アイランド集落ツーリズム@宿根木

伝統的建造物群保存地区に新潟県内唯一指定されている宿根木は、佐渡唯一の個性あふれる集落です。

北前船の廻船問屋で財を成し、船大工がつくった集落だと言われます。密集して寄り添うように家々が建ち並ぶ様子は圧巻。景観保全活動がいつでも現在進行形です！



+10

 室岡ひろしさんが写真17件を追加しました。
2月19日 20:28

松ヶ崎

佐渡アイランド集落ツーリズム@松ヶ崎

日蓮聖人が流れ着いたといわれる松ヶ崎。日蓮聖人の懸掛け石があったり、『屋号の里』として屋号看板や古民具等を玄関先にディスプレイ。風が強いため、屋根の高さが抑えられ、ヒューマンスケールの街並みが形成されています。

寺社仏閣、お禅の木など見所もたくさんあります。近年、海側にバイパス道路ができたため、集落内の交通量が抑えられ、よってより安全なムラ歩きができるようになって参りました。



+13

 室岡ひろしさんが写真7件を追加しました。
2月19日 20:44

東鴉島

佐渡アイランド集落ツーリズム@東鴉島

地名の鴉島とは、写真の小島が鴉が羽を休める島だからだそうです！急な坂道を登ると、石垣の棚田が見えてきます。石垣は佐渡では比較的珍しい！既に雪解け水が溝々と流れ、春のおとずれを感じる体験をしました！



+3

【出典】facebookの室岡ひろしページ『佐渡アイランド集落ツーリズム』

(左から宿根木、松ヶ崎、東鴉島)

▼Lifeseeing！物を観るから人に逢うへのシフト

▼DMOとは・・・

Destination Marketing/Management Organization：
デスティネーション・マネージメント/マーケティング・
オーガニゼーションの略

観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習など地域にある
観光資源に精通し、地域と協働して観光地域づくりを
行う法人のこと。

▼DMOとDMC（Company）の違い

- DMO＝公共性重視（業界団体）：Marketing中心
⇒地域をプロモーションし、知ってもらい、来てもらう
- DMC＝営利性重視（民間企業）：Management中心
⇒来てくださる人に対して、実際の手配や体験を提供する

私は、DMOとは『旅行商品の地産地消を推進する組織』
のことだと理解しています。

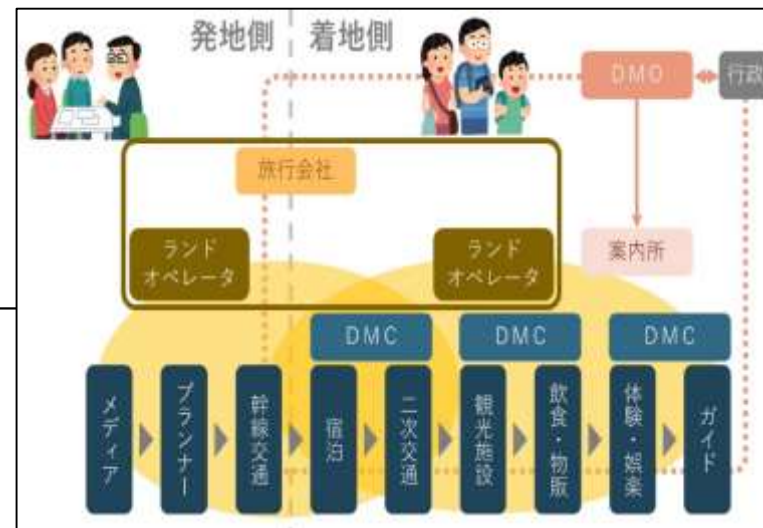
DMOづくりの精神は、下記ではないかと思えます◎

D ダメで M もともと O OKよ！

**Not Sightseeing ,
But Lifeseeing !**

**物を観る から
人に逢う へのシフト◎**

【室岡作成】滞在型観光のキャッチコピーイメージ



【出典】京都観光のCMOのブログ



韓国・農村愛一社一村運動

韓国では都市への人口集中が激しく、農産物の自由化問題も加わり、都市と農村の対立が社会問題化。韓チリFTAの発効がきっかけに。

農村愛一社一村運動(2004年～)

一つの企業が一つの農村を支援しようとする考えにもとづき、一つの企業が一つの農村と姉妹提携を結び、多様な交流活動を持続的に行うことによって、コメなどの農産物開放で、苦しくなった農業・農村を取り巻く環境を改善するために展開する運動。全国経済人連合会、農協中央会、文化日報が中心となって展開。

農作業支援

農産物購入

企業ノウハウ
を使ったビジネス
支援

- 運動開始から2年半後には、韓国にある4万余りの集落(マウル)の約3割をカバーする提携(12,975件、2006年12月時点)が成立
- 提携主体の内訳(2008年6月時点):サムスン電子を始めとする企業(41.8%)、官公署(14.5%)、農協(11.4%)、学校(7.5%)、消費者団体(5.9%)、社会・宗教団体(5.3%)

出典：経済産業省地域経済産業グループ(平成22年12月)

出典：「韓国における一社一村運動の展開要因と課題」(張、中塚、高田)

静岡県「一社一村しずおか運動」



出典: http://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-630/iss_yaiss_on/1/index.html

概要

- 農山村と企業が対等な関係のパートナーシップを組み、それぞれの資源、人材、ネットワークなどを活かした双方にメリットのある協働活動を実現することを目的。
- 県は農山村と企業の要望をコーディネートする取組と位置づけ。PR活動や農山村と企業の交流会、活動資料の作成などを持ち出して実施(09年度207万円)
- 06年度から認定制度開始。認定基準は協働活動であること、地域活性化の活動であることに加え、活動が継続して行われる見込み(3年以上)があること。
- 認定事業については、県において広報活動を実施。

実施実績(平成22年11月現在)

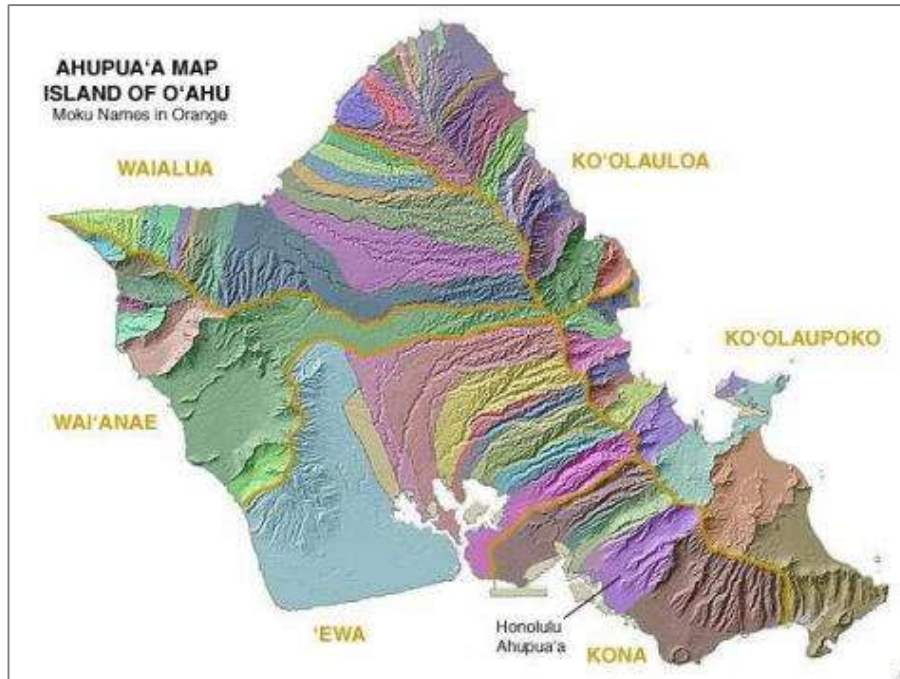
年度	企業名	内容	年度	企業名	内容
06	アストラゼネカ(株)	棚田保全、地域貢献	08	(株)エクノスワタナベ	遊休農地を利用した環境保全(水生生物の保全)、自然観察会の開催
06	(株)ポッカコーポレーション	里山保全、地域貢献	09	静甲(株)	地域の環境整備課業、地域資源を活用した新商品の開発支援
06	(株)フジヤマ	遊休農地解消、環境保全	09	不二総合コンサルタント(株)	棚田の保全活動、環境保全活動
07	静岡大学農学部	茶園管理等農作業、集落の環境保全	09	藤枝市総合病院	地元食材を活用した病院食の提供による地産地消の推進
07	富士錦酒造(株)、(株)平喜、松崎小売酒販組合	棚田米による新商品の開発販売、売上の一部を棚田保全活動に寄付	09	社会福祉法人ハルモニア	遊休農地を活用したゴンニャクイモの栽培、観光農園の栽培管理
07	富士常葉大学環境防災学部	農業体験を通じた棚田保全活動	09	(有)フジ化学	地域の環境保全や営農補助
08	居酒屋 賤機はん兵衛	店舗として棚田オーナー、地元食材を活用した地産地消の推進、売上の一部を棚田保全活動に寄付	09	(株)季咲亭	地域特産品の開発と地産地消の推進
08	(株)遠鉄トラベル	里山保全、農作業、地域貢献	09	ナカダ産業(株)	地域の環境保全
08	明治製菓(株)東海工場	里山の保全及び活性化イベントでの協力(アーモンドの星作り)	09	(株)ウェブサクセス	棚田保全活動等の広報への支援、人的支援
08	(株)季咲亭	遊休農地解消を活用した野菜等の栽培、地域の環境整備、地域特産品の開発と地産地消の推進	10	共立印刷(株)	生態系・水質保全向上対策事業(ホテルの星づくり)農業体験などの農用地の有効活動支援対策事業

出典：経済産業省地域経済産業グループ（平成22年12月）

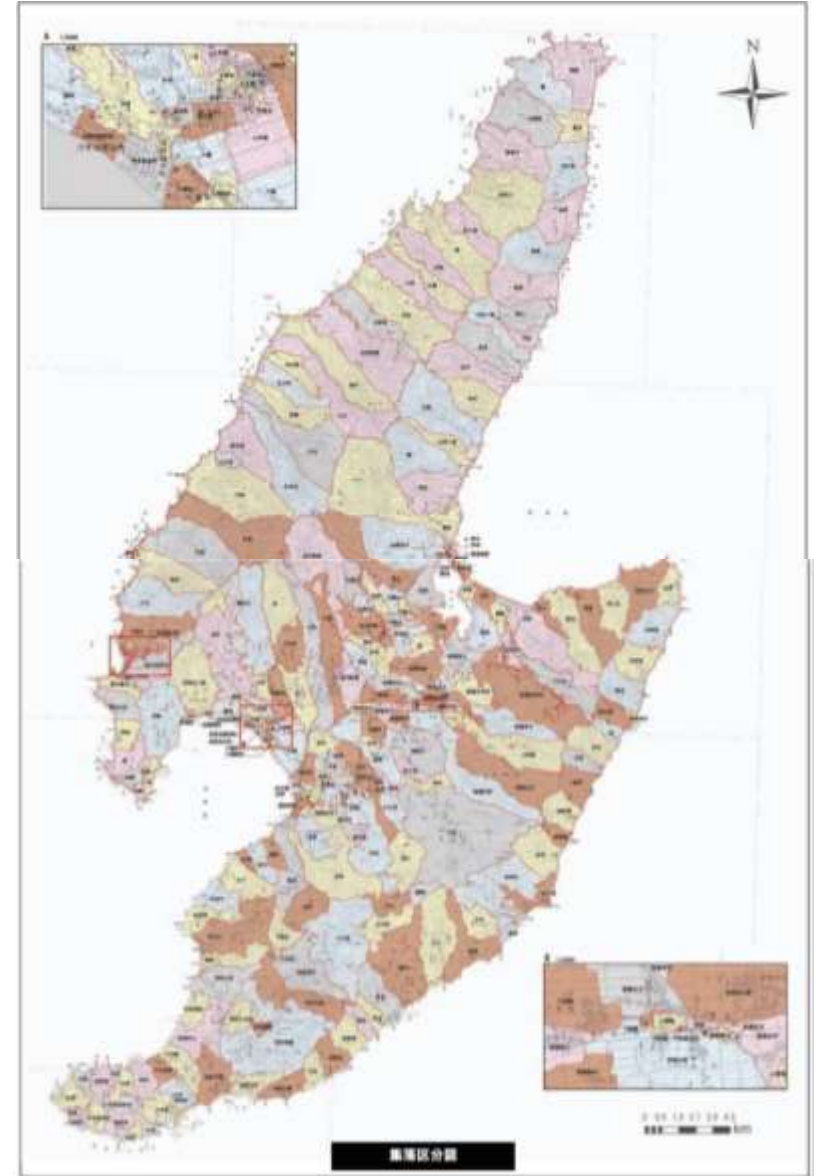
▼ 『佐渡アイランド集落ツーリズム』 構想実現のために！

◆アフプアア (AHUPUA`A) について

アフプアアは山頂から海岸までの渓谷の範囲をひとつの共同生活区域と規定し、自給自足的な経済社会が発展した。この境界線にブタの頭を模した木製偶像が備えられたことからこの概念をアフ（頭）プアア（ブタ）と呼称するようになった。アフプアアは、古代ハワイのもっとも基本的な土地利用単位であり、生活の単位であり、社会経営の単位で「きちんと閉じた」体系であった。40ヘクタール～4,000ヘクタールほどの規模。



【出典】ウィキペディア（フリー百科事典）



【出典】佐渡市歴史文化基本構想 佐渡市教育委員会

▼ 『佐渡アイランド集落ツーリズム』 構想実現のために！

13

◆ふるさと見分けについて

2016年8月10日（水）に「ふるさと見分けで地域資源を掘り起こす」

@上横山を決行しました！

東京工業大学桑子先生、新潟大学豊田先生、集落の皆さん、メディアの方々
総勢15名にて約3時間のムラ歩きとなりました。

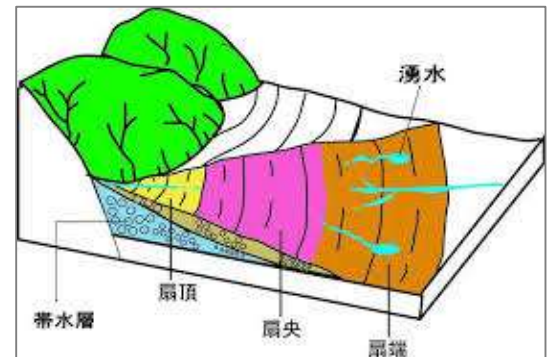
雨になって、風になって、光になって、歩いてみよう！

様々な感覚を研ぎ澄まして地域の魅力を再発見する勉強会です。

水になったつもりで、上から流れに沿って歩いてみるというのが分かりやすいイメージです！
水源である旧吉井村の水力発電所跡地からスタートして、集落の上部分にあるファームポンド（ため池）までをメインに歩きました。

時を超え、『空間の履歴』（桑子先生の言葉）に思いをはせながら、皆さんと歩き、貞心堂で最後のまとめをやりました！

- 水になって地形を見ると高い所から低い所への流れが見えてくる。
- 各集落にどうやって水を分配するかの想いについて、分水を見ることで見えることもある。
- 上横山は長江川水系の扇状地であり、上の方は水はけがよく、もともとは畑であった。
下の方は水はけが悪い場所も多く、深田となっていた部分もあった。
- 昭和44・45年に上横山では、田んぼの基盤整備が行われた。
- 地元の方は見慣れた風景であっても、外の目でみるととても素晴らしい魅力がゴロゴロ転がっている。
- 地名や古地図について調べると分かることがたくさんある。



【出典】ひむか教育用コンテンツ集

▼ 『佐渡アイランド集落ツーリズム』 構想実現のために！

14

◆上横山マーケットについて

【期日】2016年7月31日（日）10時～14時

【場所】あいぽーと佐渡 催事スペース内

【目的】上横山集落の魅力の発信、
地産商品の販売による魅力の伝達のため

『上横山マーケット』とは上横山で採れた野菜、果物や加工品を販売し、その素晴らしさを島内外の方に知っていただく試みです。上横山マーケット@あいぽーと おかげさまで、完売しました!!! また、会場では上横山集落の写真や、『上横山大百科』を展示して、上横山の魅力をお伝えいたしました！

【総売上】13,150円

【出展者】5軒

【売上】13,150円÷5軒=@2,630円

【商品数】14種類95商品

【人数】41名

【客単価】13,150円÷41名=@320円

【平均数】95商品÷41名=@2.3商品

※売り上げの10%はハーバーマーケット実行委員会へ

⇒自宅の庭に生っている野菜・果実がお金に代わるという成功体験。

孫へのアイス代、祭のお小遣いといった『生きたお金』の使い道。



▼歴史的建築物の保存・利活用によるマチ・ムラ活性化！

◆兵庫県篠山市の一般社団法人ノオトについて

⇒建築を直し過ぎない、サービスを安売りしないことにより、上質な空間の創出とブランド化に成功。

ノオトはアソシエイツとして運営しており、世界観を全スタッフで共有していることが秀逸。国家戦略特区認定。



◆鹿児島県奄美大島の伝泊 奄美について

⇒奄美大島出身東京在住の建築家が主体となって進めているプロジェクト。建築基準法等の法令順守による進行。

伝泊とは、[伝統的/伝説的な建築]を次の時代につなげるために宿泊システムを組み込んだ宿や活動のこと。

「奄美大島の伝統を残し、島の良さを伝えたい。」それが奄美で営む「伝泊」。



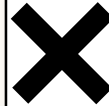
◆奄美における伝統建築の7つの条件

宿泊していただく建物は、50年以上経った奄美大島の伝統的な建築です。

私たちが考える伝統建築とは、どのようなものを七つに分けてご紹介いたします。

1. 台風対策のための珊瑚石や生垣・防風林やブロックの塀
2. 分散型の配置計画
3. 平屋で入母屋の屋根形状
4. 高床
5. ヒキモン構造
6. 独特の平面計画
7. 奄美の材料

▼ 『さどんぼ』 × 『伝泊・佐渡』 などの可能性について



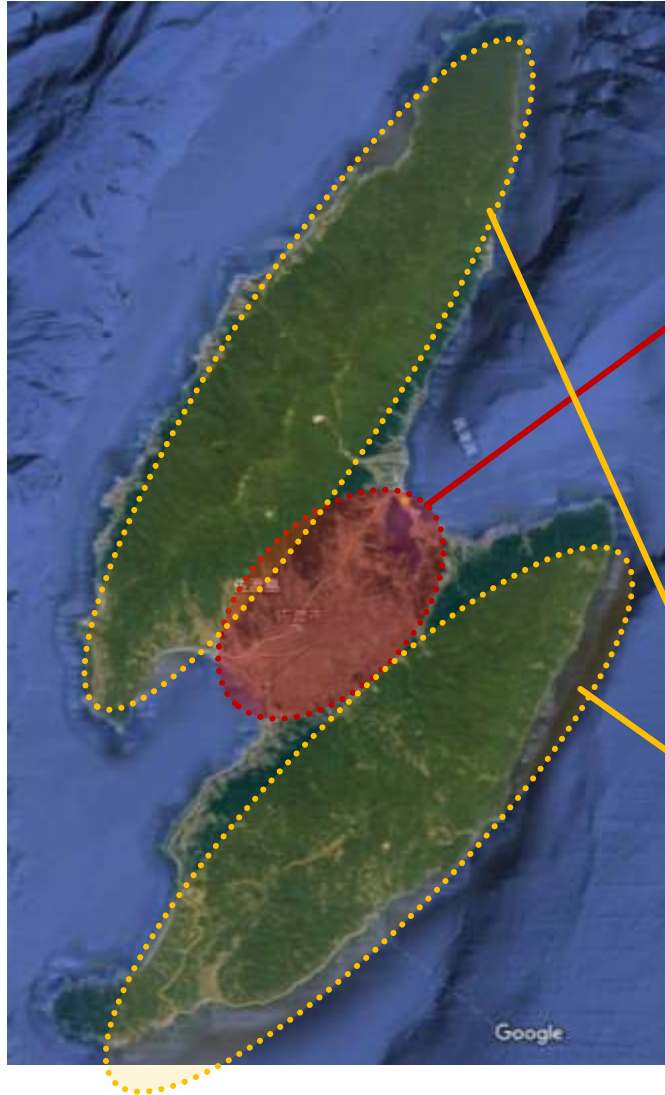
その日は、その集落を堪能する。【DMO・DMCの観光地域づくり】

【出典】佐渡地域観光交流ネットワーク『さどんぼ』 <http://www.sado-kouryu.jp/sadonpo/>

【出典】『伝泊・佐渡』 <http://den-paku.com/sado/>

▼農業の再隆盛戦略：秋田県大潟村の行政視察を受けて

◆佐渡市としてのエリア別農業展望について



▼【秋田県大潟村モデル】

◆ナンバーワンの米づくり！！

- ・基盤整備による拡大継続による農業の大規模化
 - ・AI(人工知能)導入型大規模農業(GPS連動田植・稲刈機等)の実証実験フィールド
 - ・朱鷺と暮らす郷米のさらなる改善
- ⇒国仲平野の大規模農業スタイル『農で食べる！』

▼【全国棚田サミットモデル】

◆オンリーワンの米づくり！！

- ・集落米(棚田米)の生産と滞在型観光・農業体験との融合
 - ・AI(人工知能)導入型農業(小型機械、法面自動草刈機等)の実証実験フィールド
 - ・棚田米のさらなる改善、参加集落の増加
- ⇒棚田or準棚田の小中規模農業スタイル『農でつながる！』

▼林業の再隆盛戦略：アテビの特徴と特長

◆アテビの特徴について

- アテビ＝ヒノキアスナロ。サドアテビ、青森ヒバ、能登アテ、アテビ、アテ、ヒバ等の呼び名。
- 陰樹で、北限⇒北海道、南限⇒栃木県日光付近。
- 防腐・抗菌作用のあるヒノキチオール(含有量：1～2%)がヒノキよりも多い。
- 初期成長が遅い、耐陰性、耐雪害性、耐病害虫性が強い、浅根性。
- シロアリに強く、耐久性が高く、住宅の土台に最適。蚊なども寄せ付けない。
- スギでは10年で平均5mに達するが、アテビはその半分の10年で平均2.5m。
- 柱材では50年、造作材では70～80年での伐期を見込んで経営する必要がある。
- 挿し木の発根性が非常に高い。
- 他の植生を寄せ付けないアレロパシーを強烈に発散する樹種。
- 大佐渡、小佐渡の北斜面＝日陰であれば、下草刈り等のメンテナンスフリー。

【参考資料】佐渡のアテビの会作成「アテビの会結成10周年記念誌」、

石川県農林総合研究センター林業試験場作成「能登のアテ（能登ヒバ）」



【出典】日本デオドール株式会社公式サイト

- ◆アテビは成長が遅いため、長期スパンでの経営が必要であるが、短期スパンでも収益を得るビジネスモデルを構築することも重要。

- ◆ヒノキチオールの含有量(1～2%)が多い、という特性をフル活用するべき。

例：【地域産品】アテビの間伐材・端材を活用した風呂フタ、アテビのアロマオイル、(バイオマス発電)

【森林体験】フィトンチッド(癒しの効果)を体感するアテビの森体験、下草刈りや枝打ち体験

【制作体験】間伐材のコースター、表札、ストラップ、箸置き、キーホルダーづくり体験・・・他

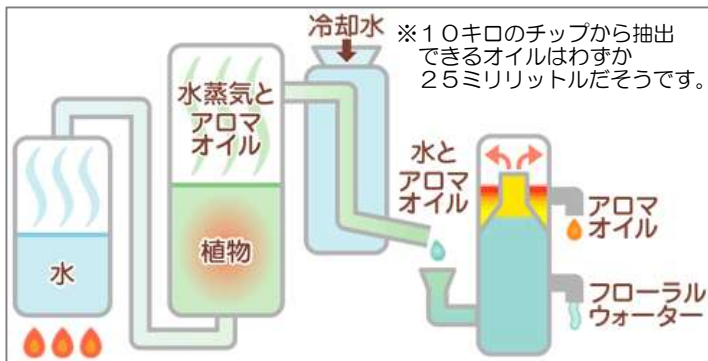
▼林業の再隆盛戦略：アテビ利活用の参考画像



【出典】ウェブサイト：四万十とおわ村 ※高知県の森林率：84%⇒はちよんプロジェクトとして様々な商品開発を展開中！

【出典】ウェブサイト：らしさ提案プロボット

- ご当地アロマとして、アテビのアロマオイル(アロマウォーター)を生産する。⇒女子旅のお土産に最適
- アテビの間伐材・端材を活用した風呂フタ⇒アテビの香りが漂い、ユニットバスのメンテナンスも楽。香りが薄くなったら、アテビのアロマオイルを風呂フタに振りかければ、また香りが風呂中に漂う。
- 製材は森林組合や、木材業者に依頼する。最終余材は、バイオマス発電に活用する。
- アロマオイル(アロマウォーター)生産は補助金を活用してプラント整備し、廃校等既存施設を活用する。
※実現化には、アテビの会、林業実践者大学、森林組合、民間企業、NPO、佐渡市等の多くの関係各所のご協力が必要です！



【出典】ウェブサイト：アロマ@癒し生活



【出典】ウェブサイト：kakuhon.exblog.jp & 無垢材の四国加工

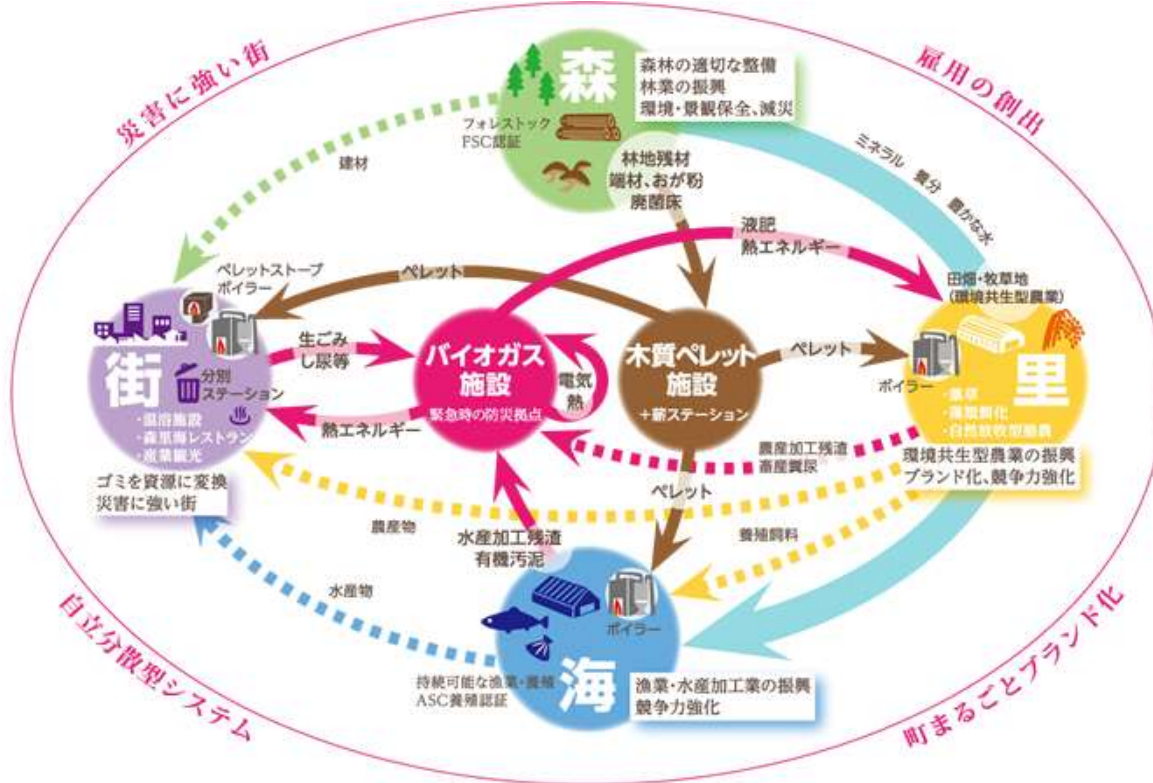


【出典】ウェブサイト：キシルネットワーク

▼水産業の再隆盛戦略：MSC漁業認証/ASC養殖場認証

◆『森は海の恋人』、『森川里海の考え方』について

◆MSC漁業認証/ASC養殖場認証について



「信頼できるガイドライン」によって証明されていることで、トレーサビリティや環境負荷といったことを確認することができ、納得して手にすることができます。

たとえばそれが水産物であれば、目に見える情報である魚種や値段のみならず、持続可能に資源管理されていることや、環境配慮がなされた資源であることがマークで明確に示されることで、消費者が安心して選択することができます。

【出典】南三陸町バイオマス産業都市構想



【出典】アミタホールディングス株式会社WEBサイト



【出典】CSR JAPAN

▼【提案】NPO両津吉井応援団(仮)の概要について

◆※集落経営を考える際に、全島に23ある『小学校区』という単位で考えられないか・・・

『小学校区』というコミュニティを大切にすることによって
佐渡の集落での活動を永続的に残すことができないかと考えます。
そこで、NPO両津吉井応援団(仮)を結成し、下記5点に取り組む提案です。

- ①集落毎の字会計や各種行事案内資料の統一フォーマット化、データ化
 - 【A】秋津、旭、湍端、上横山、下横山、立野、長江（五十音順）の字会計（※各集落独立の別会計、非公開）
 - 【B】ムラ歩き事業会計（集落の魅力を発掘し、ムラ歩きガイドを行う等）
 - 【C】簡易宿所事業会計（古民家を再生し、宿泊施設に活用する等）
- ②ムラ歩き事業⇒【B】
佐渡アイランド集落ツーリズム構想実現のため、
あるかんか佐渡、さどんぼ等の取り組みを両津吉井地区でも行う
体験コンテンツを発掘し、集落の魅力を体験できるようにする
- ③簡易宿所事業⇒【C】
空き家利活用、古民家再生、宿泊を推進する
※簡易宿所は、食材提供であればOK、お料理提供はNG
- ④両津郷土博物館の利活用
郷土博物館機能に加え、NPOの事務局の拠点としても活用する
- ⑤両津吉井産のお土産の開発・製造
チャレンジド立野、さどのめぐみっ茶等の好事例を参考にお土産をつくる

▼見並陽一氏『日本版DMOを核にした観光地域づくり』

◆2017年2月17日(金) @あいぽーと佐渡

- 約25年前に全国で初めて『冬紀行』を謳ったのは佐渡である。佐渡の自然は雄大だし、食も楽しめる。特に冬の食は充実している。古い寺社仏閣も多く、文化がとても豊かで長い歴史もある。
 - 佐渡の中で合意形成をしながら受け入れる体制を構築し、それぞれの人材が役割を果たす『DMO』の先駆けを佐渡は行っていた。
 - 地域内で各組織がそれぞれに『セールス』するのではなく、地域内の魅力について話し合いながら作り上げる『マーケティング』こそが必要。それが、観光地域づくりを行う『DMO』である。
 - インバウンド対策としても、どのような観光商品を作り、外国人旅行者の方に佐渡へ来てもらうかについて考えることが重要。『消費率』（佐渡にどれくらいお金を落としてもらえるか）と『リピート率』（佐渡に関心を持ち、再度来訪してもらえるか）が大切である。
 - バリ島や、ドイツのアルゴイ・チーズ街道は、自分でつくって自分で売るというダイレクトマーケティングの手法により成功を収めた。
 - 佐渡の人との交流や文化・芸能の体験、自然との共生を体験していただくことで、佐渡の豊かな文化、暮らしの営みを共感できる。
- ∴観光地域づくりを行うためには、地域文化その土地らしさこそ重要である。そして、観光地域づくりには、少なくとも10年～20年がかかることなので、焦りは禁物＝気長に取り組むべし！

▼(公社)日本観光振興協会前理事長 見並陽一氏 【主催】佐渡市 観光振興課3資産プロモーション室



▼清水慎一氏『トキめき佐渡にいがた観光圏』が目指すべきこと 24

◆2017年5月19日(金) @あいぽーと佐渡

- まち・ひと・しごと創生本部として目新しいものは、DMOとCCRC。
- 観光地域づくりとして、地域の稼ぐ力をどう作り上げるかが重要。
- 団体は激減、個人化している。⇒66.4%は個人観光旅行
- 爆買いから爆学？へのシフト。
 - ↳今回は買い物があったい
 - ↳次回は農漁村体験や四季の体感、生活文化体験があったい
- 日本の『フツー』がみたい。『フツー』を体験したい
- 観光観光しない。五感で味わうことの大切さ！
観光者視点→生活者視点へのシフト！
- 古民家等の空き家再生による宿泊施設化は必須！
小値賀島や祖谷などは先進地である。
- 再来訪意向のKPIが重要で、『あ～佐渡は良かった』の感想が大切。
⇒何したら良い？の滞在プログラムの充実
- 世界の佐渡を目指すべし！
- トキめき佐渡にいがた観光圏の『鬼が舞う、祭礼の島へ』という
ブランド・コンセプトは素晴らしい！
- 観光地域ブランド化を進めるべし！SAKURA QUALITYの導入など
世界の佐渡となれるようにがんばりましょう！
- ∴地元の民間の方が組織のトップになり、佐渡を引っ張るリーダーの
育成が必要。DMOの組織づくりは5年、10年かかると長い目で
盛り立てていくことが最良である。

▼大正大学地域構想研究所教授 清水慎一氏
【主催】トキめき佐渡・にいがた観光圏



▼アレックス・カー氏『美しき日本を求めて』

- ◆2017年5月19日(金) @アミューズメント佐渡(はまなすホール)
 - ・インバウンド観光は『観光立国』を目指す、世界的な産業である。日本のインバウンドは2400万人→東京オリンピック2020年には、4000万人になると予測され、コンピュータ産業を凌ぐ産業になる。
 - ・将来的に強い地域は、いかに外部の人が引っ張るか、ということ。観光、食事、宿泊などで地域にお金がまわり、地域が元気になる。
 - ・佐渡は、看板などが少なく、田植え後の風景が美しく素晴らしい。
 - ・日本では、『不便』という言葉が印籠のような力を持っている。
 - ・『便利』という意味そのものを見直すべし。3分、5分の道路の便利さについては、考え直すべきではないかと思う。
 - ・外国人、日本人のそれぞれ求める宿泊の快適性とは、共通する『現代人』という見方で考えると良い。古民家再生を行う場合は、電気系統、冷暖房、水廻りについては刷新するべきである。文化財保護ではなく、古いものを残し活用するという考え方。空間の力を保ちつつ、今の時代の快適さに引っ張る努力をしている。
 - ・1973年には徳島県祖谷の古民家を取得し、簾庵(ちいおり)＝横笛の草家と名付け、自ら改装をして300年前の古民家を蘇らせた。研修生に手伝ってもらい、茅刈りウィークエンドのイベントとした。
 - ∴景観と環境についての意識が欧米と日本とでは大きな違いがある。人工物が自然環境に影響を与え過ぎないように気を遣う必要がある。佐渡の家並み、納屋や蔵の土壁や田んぼの風景など、なんでもない風景こそが佐渡の魅力であり、活用することで道は開けると思う。

▼東洋文化研究所 アレックス・カー氏
【主催】佐渡を世界遺産にする会



▼山崎亮氏『コミュニティデザイン～人をつなぎ地域をつくる～』

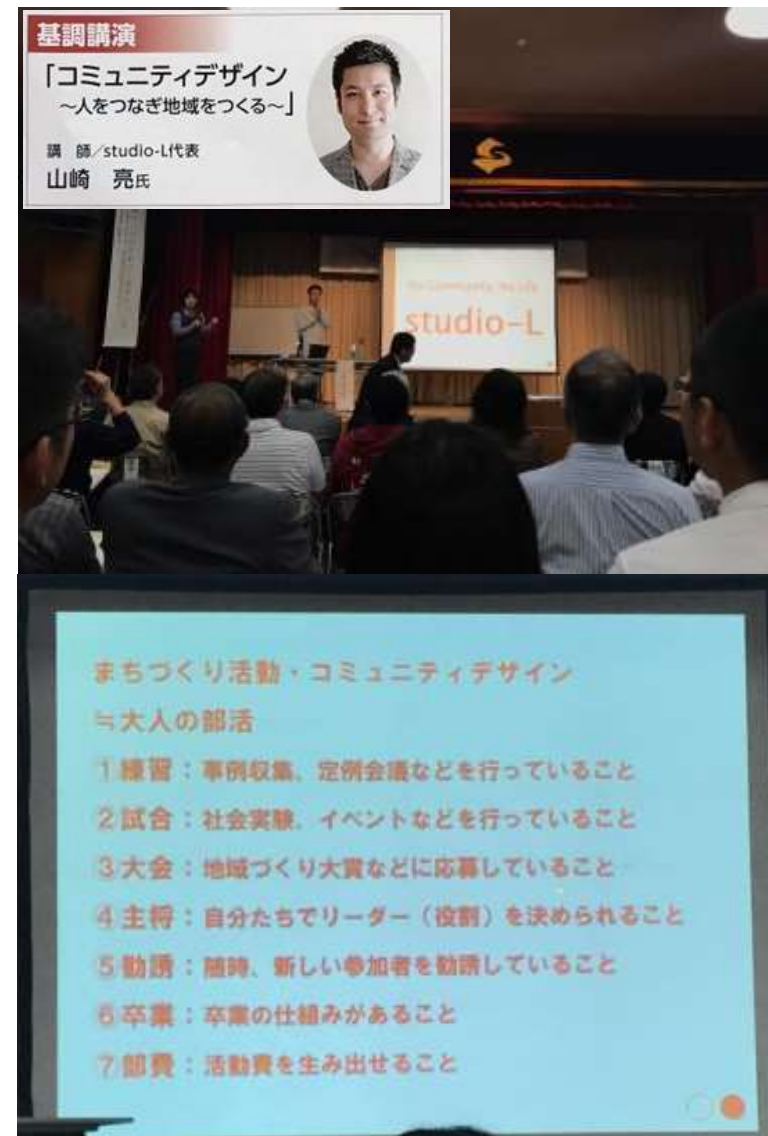
26

◆2017年5月28日(日) @あいかわ開発総合センター

- 『コミュニティデザイン』とは・・・人と人をつなげ、地域の主体的な活動を生み出す仕組みづくりのこと。
 - ワークショップは寄り合いみたいなもので、だいたい3年間、地域と関わる。その間に、写真の撮り方、キャッチコピー、チラシのデザイン、パソコンの使い方などを回数を重ねながらブラッシュアップしていく。他のデザインが気になるようになり興味を持ってもらうきっかけとする。最終的には、地域の人たちだけでワークショップなどができるようにする。
 - 行政がなんとかしてくれるという意識を変えていくことが必要。
 - 『観光から関係へ』⇒人に会いに行くということ。
これからは、佐渡の誰さんとお友達になったのですか？
連絡先を交換し、お友達を増やしていくことが大切だと思う。
 - 瀬戸内の『しまのわ』はお金を介さないプロジェクトが多いが、役に立たないようだけど役に立っている。
- ⇒生きがいであり、健康長寿であり、生活の張り合いになるという人が一人でも増えていくことなのであればそれで良いと思う。
- もし世界遺産になったとして、どんなまちにしたいのか。10年後を考えておかないと、世界遺産になる前よりもひどい場所になりかねない。地域外資のお土産屋さんも良い時は出店し、やがて撤退する。
- ∴それぞれの人たちが活躍しながら、ゆっくりと小さな失敗をたくさんするべし。後から見ると、地方創生『まちひとしごと』！
- ⇒地域の人たちの意識が変わることが大切。
世界遺産になった場合に地域がやるべきことを粛々と進めるべし！

▼studio-L代表 山崎亮氏

【主催】新潟県、新潟県まちなみネットワーク



▼佐渡における集落ガイド・三資産ガイドの三原則（案）

◆大前提

観光のお客様は、勉強しに来ているわけではなく、佐渡を楽しみに来てくださっているということをお忘れなく。お客様がどういうことに興味がありそうか、出身地や趣味などの話をしながら、その方に合ったガイドをする。

◆集落ガイド・三資産ガイド三原則（案）

▼①ポジティブorニュートラルに表現する。ネガティブには言わない。

×なってしまった。⇒ △なった。⇒ ○なることができた。

▼②大ウソはつかないようにする。ただし、だいたい合っていれば良い。

×金が780トン採れた ⇒ ○78トン採れた（容積にしておよそ軽バン一台分）

○1601年に相川で金産出⇒ 江戸幕府が約300年続いたのも佐渡金山のおかげといっても過言ではない。

▼③ユーモア・ウィットに富む表現をする。笑いは記憶に留まる。

※例えば、ダジャレは有効

トキ { ○トキは普通に見られますか？⇒トキドキみられます。
○トキだと思ったら似た白い鳥だった時⇒二つの意味でサギだ！

金 { ○道遊の割戸は江戸時代に青柳の割戸と呼ばれていたそうです。
どちらも人の名前だそうですが、実際のところどうなのか割と分かっていません。
○50メートルシックナーは、49.7メートルという説もあります。シッ・ク・ナーだけに。

ジオ { ○沢崎の海岸では、緑色のカンラン石=ペリドットの細かい原石が見られるため、緑色に見えます。
—だからここが、カンラン石の観覧席です。
○沢崎の枕状溶岩は、あちらに見える枕状岩トンネルに入ると、まっくら状溶岩になります。

etc

【写真】ジオパーク講座（中級）にて沢崎のタケノコ岩

▼特定有人国境離島地域社会維持推進交付金について

◆「もう一泊」したくなる地域の魅力の商品化

その訴求方法（滞在型観光促進対策）の状況

滞在型観光促進はまさに観光地域づくりを推進する佐渡版DMOとも相通ずるところだと考える。

▼『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』との関連

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえない時を過ごす人と人とが繋がっていく世界観の実現において、「もう一泊」の考え方は重要である。

【出典】内閣府 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/kokkyouritou/pdf/koufukinseidogaiyou.pdf>

◆雇用機会拡充事業（佐渡市雇用機会拡充事業補助金）

不正は悪だが、失敗は悪ではない。むしろ失敗は成功の母である。

募集要綱の条件が厳しすぎると、やってみようというチャレンジ精神をそいでしまうリスクがあるということに留意

▼10代、20代の若者の起業支援に関する状況について
創業支援ネットワークと若者の起業が連携できないか。

『若者が起業する島づくり』によって、アクティブシニアも輝き、若者も輝く島のブランディングにつながる。

特定有人国境離島地域社会維持推進交付金④（滞在型観光促進）

内閣府

特定有人国境離島に「もう一泊」したいと旅行者に思わせるような島での食や体験といった地域の魅力を旅行商品化や、観光サービスの担い手の育成などの取組を支援（※「日帰りから一泊へ」、「一泊から二泊へ」、など「もう一泊」の工夫）

地元における魅力的な現地観光サービス・人づくりの促進と大手旅行会社等による新しい旅行商品化を促進

旅行商品や滞在プランの企画・開発	実証・宣伝	販売促進
<ul style="list-style-type: none"> ○地域の魅力を発信、再発見 ○現地型観光メニューの洗い出し、ブランディング ○地域での合意形成、商品化、プラン化 ○旅行会社等による商品企画・開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○現地型観光メニューの担い手によるサービスの実証的な提供、実証に関する器具、機材等の購入 ○滞在プランのモニター ○旅行商品や滞在プランの広告宣伝 	<ul style="list-style-type: none"> ○滞在プランとセットで割引となる企画航空券・乗船券等の販売、特別価格での宿泊（割引分への補助） ○旅行代理店への委託販売（委託料への補助） ○開発した旅行パックの割引販売（割引分への補助）

【交付金の流れ】

交付事業費1/10 特別交付税措置

内閣府 → 事業実施主体（協賛企業等） → 事業実施者（協賛企業等）

事業実施者：旅行会社、運送・宿泊サービス事業者、観光協会、地元の観光事業者等

事業の概要

- 事業実施主体
 - 地方公共団体（都道府県又は市町村）
- 事業実施者
 - ① 地方公共団体（都道府県又は市町村）
 - ② 地方公共団体、観光協会、民間事業者等により構成される協議会等
 - ③ 観光協会、旅行会社、運送・宿泊サービス事業者その他滞在型観光を促す民間事業者等
- 対象経費
 - ① 旅行商品、企画航空券・企画乗船券又は滞在プランの企画・開発・宣伝費
 - ② 旅行商品に組み入れる観光サービスの提供のための実証経費
 - ③ 企画、開発した旅行商品等の販売を促進するための経費（割引分）
- 負担割合
 - 国 5.5/10、地方公共団体 4.5/10

特定有人国境離島地域社会維持推進交付金③（雇用拡充）

内閣府

特定有人国境離島地域における創業・事業環境の不利益に鑑み、民間事業者が雇用増を伴う創業または事業拡大を行う場合の設備投資資金や、人件費、広告宣伝費などの運転資金を最長5年間支援

創業支援（事業費600万円まで）

- 特定有人国境離島地域住民による創業資金（設備資金、運転資金）の支援
- Uターン移住者や地域おこし協力隊卒業者の創業資金の支援し、定住・定着を促進
- やる気がある若い人を後継者として事業を引き継ぐ場合（事業承継）の設備や施設の改修費等の支援し、廃業に防止

※特定有人国境離島での創業対象：729件（経済センサス2014）→ 年間170件増加目標

事業の概要

- 事業実施主体
 - 地方公共団体（都道府県又は市町村）
- 事業実施者
 - ① 特定有人国境離島地域内に事業所を有する事業者又は事業所を設置しようとする事業者
 - ② 特定有人国境離島地域の商品、サービス等の販売を目的として事業を実施する者
- 対象経費
 - ① 設備費、改修費（設備投資資金）
 - ② 広告宣伝費、店舗等借入費、人件費、研究開発費、島外からの事務所移転促進費、従業員の資格取得・講習受講経費（運転資金）
- 事業費上限
 - 創業支援：事業費600万円
 - 事業拡大：事業費1600万円
 - ※設備投資を伴わない事業拡大：事業費1200万円
- 負担割合
 - 国 1/2、地方公共団体 1/4、事業者 1/4

【交付金の流れ】

交付事業費1/2 特別交付税措置

内閣府 → 事業実施主体（都道府県又は市町村） → 事業実施者（民間団体等）

事業拡大支援（事業費最大1600万円まで）

- 新しく人を雇って生産能力の拡大やサービスの付加価値向上を行う事業者の設備投資資金や運転資金の支援
- 地元産品の販路拡大等のために地域外に設立した地域商社に産品を納品する地元加工場等の生産力拡大のための設備投資資金の支援（地域内での雇用増が必要）
- 島内の事業所がUターン者や地域おこし協力隊卒業者を新たに雇用して事業拡大を行う場合の雇入れを支援し、定住・定着を促進

このほか、新子補給制度により、最大3年間の元金割戻、実質無利子の融資で事業資金を支援

▼平成30年度設立予定の佐渡版文化振興財団について

▼古建築を修繕するハード整備の可能性について

佐渡に数多く現存する寺社仏閣、神社に併設される35の能舞台、重要文化財である茅葺などの古民家の整備といったハード面について、文化振興財団の活躍が期待される。また、DMOの視点からも有効な観光資源ともなりえる。

▼寺社仏閣や古民家の状況について

佐渡は日本の中でも、トップクラスに人口あたりの寺社仏閣が多いと言われている。

佐渡島内に、およそ480の寺社仏閣があると言われている。
⇒人口57,000人：およそ120人に一つの計算である。

また、古民家についても農山漁村の多様性を持つ古民家が数多く残されている。古民家に限らず利活用可能な住居は約3,000棟あると言われている。



▲国指定重要文化財（建造物）北條家住宅



▲山本悌二郎氏の別邸であった茅葺の松雲荘



▲茅葺の寿命は短く高価。⇒現代のふき替えシステム必要。

◆CCRCとは・・・

【出典】コトバンク

「継続的なケア付きの高齢者たちの共同体」。仕事をリタイアした人が第二の人生を健康的に楽しむ街として米国から生まれた概念。元気なうちに地方に移住し、必要な時に医療と介護のケアを受けて住み続けることができる場所を指す。政府は、有識者会議で「日本版CCRC」構想をまとめた。高齢者の地方移住を促すことで首都圏の人口集中の緩和と地方の活性化を目指す。

▼佐渡版CCRCとは・・・

CCRCとは『高齢者が元気に輝き続けるムラづくり』

のことだと私は理解しています。多世代交流の促進と
そのためのシニア雇用を作り出すことが必要と考えます。

【対象】⇒既に佐渡に住んでいる高齢者の方。佐渡出身者の方が数多く所属される首都圏佐渡連合会との連携、入間市・国分寺市・荒川区などの首都圏在住者の方に対して、健康長寿で暮らせる終の棲家としていただくこともあり。

▼松田智生氏（三菱総合研究所プラチナ社会センター主席研究員）

CCRCは、首長の考え方次第で、前向きに進んでいく！

▼桑原聡氏（一級建築士事務所 桑原聡建築研究所 代表）

CCRCは、『施設』ではなく『住まい』と再認識せよ！

ピンチをチャンスに変える 日本版CCRC(生涯活躍の街)

CCRC(Continuing Care for Retirement Community)

佐渡市では、2025年の地域包括ケアシステム構築に向けて、様々な角度からその対策について模索しています。超高齢化、人口減少、雇用不安等は既に大きな課題となっており、その対応は急務となっているところです。この度、日本版CCRCについて佐渡市で展開できる可能性を考察するため、議員会を開催し理解を深めたいと考えております。つきましては、皆さま方にはご参加のほどよろしくお願い申し上げます。

日 時：平成29年7月24日(月) 午前10時から正午まで

会 場：佐渡市 金井コミュニティーセンター 大会議室

講 師：松田 智生氏（三菱総合研究所プラチナ社会センター 主席研究員）

内 容：ピンチをチャンスに変える日本版CCRC（生涯活躍のまち）

講 師：桑原 聡氏（一級建築士事務所 桑原聡建築研究所代表）

内 容：八幡平と周辺地域のCCRC実践を経て佐渡での可能性を考える



▼松田 智生氏
専門は超高齢社会の地域活性化、アクティブシニア論。2010年よりCCRCの有望性を提唱し、政府の日本版CCRC構想有識者会議委員他、産官学でアドバイザーを数多く務めるミスターCCRCと言われる当該分野の第一人者。「日本版CCRCがわかる本」の著者。





▼桑原 聡氏
郡内住宅・集合住宅、及び近郊の別荘を多数手掛ける傍ら、オークフィールド八幡平、東八幡平病院、特別介護老人ホームりんどう苑、ものがたり診療所もりおが、釜石上中島町高齢者住宅など、八幡平市と若手県内でのプロジェクトも多数進行中。一級建築士・インテリアプランナー・宅地建物取引士。



主催：佐渡市 所在地：新潟県佐渡市千穂232
お申込み・お問合せ先：佐渡市 市民福祉部 高齢福祉課
地域包括ケア推進室（担当 安達）
【TEL】0259-63-3790 【FAX】0259-63-5121
【E-mail】r-care@city.sado.niigata.jp

【出典】佐渡市 市民福祉部 高齢福祉課作成 講演会チラシ

▼佐渡の明るい未来をつくる方程式：DMO×CCRC=PPK

◆DMO×CCRC=PPKとは・・・

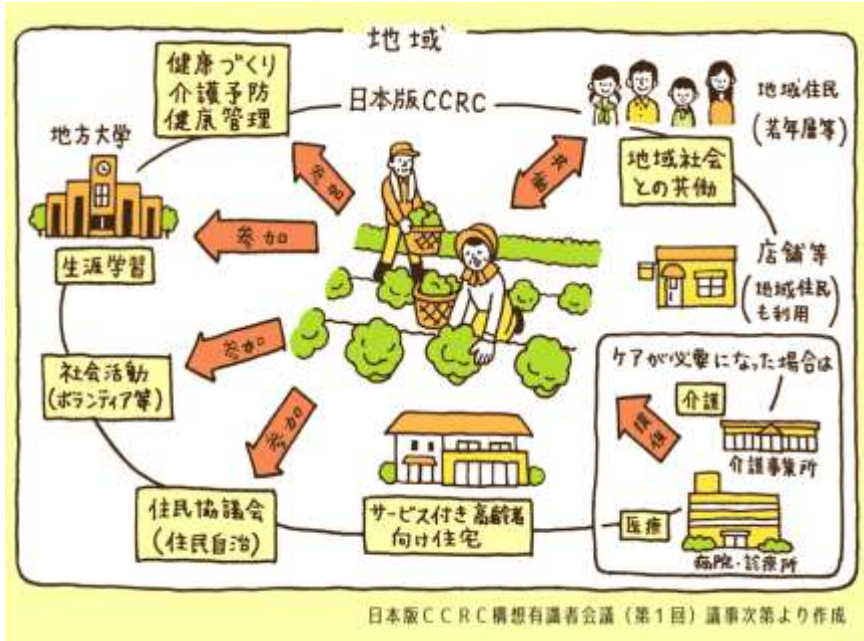
DMOとは『旅行商品の地産地消を推進する組織』

CCRCとは『高齢者が元気に輝き続けるムラづくり』

PPKとは『亡くなる直前まで元気なピンピンコロリ』

↓
観光地域づくりに関わりながら、元気な高齢者として日々の生活を営み、地域に貢献していただくことで、ピンピンコロリの最期を迎えることができれば、その人にとってとても幸せな人生だったと思えるような世界が実現できるのではないかと考える。

アクティブシニア=元気な高齢者の皆さんが、小中学校に赴き総合学習に関わることや、子どもを預かるような多世代交流をしたり、遊休農地を活用した学校給食のための野菜作りや地域内の草刈りなど、地域の仕事を行うこと、観光のお客様に集落のガイドを行うことなどによって生き甲斐を見出し、ひいては健康長寿であり続けること。それが観光DMOの観光地域づくりの中で掛け算されていく仕組みづくりが必要。より多くの高齢者の方が集落への貢献という役割を担いながらお元気に暮らしていただくことが重要だと考える。



日本版CCRC構想有識者会議（第1回）議事次第より作成

【出典】RECRUIT社 HELPMAN JAPAN <http://helpmanjapan.com/article/4598>



PPAP ならぬ PPK

【出典】youtube <http://rocketnews24.com/2016/10/12/811319/>



【出典】さどの島銀河芸術祭 公式WEBサイト
<http://sado-art.com/>



【出典】鼓童文化財団 公式WEBサイト
<http://www.kodo.or.jp/foundation/>



【出典】佐渡市WEBサイト
https://www.city.sado.niigata.jp/z_ot/3heritage/index.html

事務局機能：
 実行委員会 or 佐渡市 or 民間企業 or 財団

『DDMO・DMCの観光地域づくり』
 『佐渡アイランド集落ツーリズム』構想



▼^{ひとし}渡辺齊氏『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ』 33

◆2017年6月25日(日) @あいぽーと佐渡

- 大地の芸術祭は「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を主要目的とした2000年から始まるアートプロジェクト。
- 基本理念は「人間は自然に内包される」
- 渡辺さんは、「大地の芸術祭」を新潟県職員の担当責任者としてアート×地域の成功に結びつけた立役者である。
- 人口減少は、ただの現象であって、それ自体が問題ではない。
- 妻有地域には公共事業に依存する仕組みが作られていた。
- 自分が生まれ育った、住んでいる地域のプライド醸成が必要。
- アートで地域を活性化できないかと考え、「越後妻有アートネックレス構想」を構築した。
- 蛇のように脱皮するイメージ
- 最初は散々な評価であったが、長期的な戦略が必要で、10年、20年と継続することが必要。自治体とも覚書を締結した。
- 合意形成をとるのが大変だが、若者をワークショップへと巻き込む。
- 地域の方々とは膝と膝とを突き合わせてじっくり話し込むべし。
- 依存の構造から、自立の構造へのシフトが必要。
- 結果としては、地域に笑顔が増え、地域愛が育まれたと思う。

∴渡辺齊氏の言葉

『アートとは、自然と関わる技術のことである。』
がんばろう！という意識が地域の景観にも現れてくる。

▼(一社)新潟県建築士会常務理事 渡辺齊氏 第3回「芸術祭のつくりかた」講座にて



【出典】公式サイト <http://www.echigo-tsumari.jp/>

▼小川弘幸氏『新潟市 水と土の芸術祭について』

◆2017年8月20日(日) @あいぽーと佐渡

- 水と土の芸術祭は、2009年にスタートし、水と土に新潟の成り立ちのアイデンティティを求め、様々なプロジェクトを通じ情報発信。
- 基本理念は「私たちはどこから来て、どこへ行くのか～新潟の水と土から、過去と現在（いま）を見つめ、未来を考える～」
- 芸術祭にはベーシックな基本理念が必要で、絶対にぶれるべからず。
- 小川さんは水と土の芸術祭2015総合ディレクターとして新潟での芸術祭を成功に結びつけた立役者である。
- ①アートプロジェクト ②市民プロジェクト ③シンポジウム ④子どもプロジェクト ⑤おもてなし のうち、注目を集めて来ているのは市民プロジェクトである。基本理念に沿ったものであれば、街歩きでもダンスでもなんでもあり。つまり基本理念構築が最重要！
- 芸術祭を通じて、自分たちに何ができるか？
アーティスト×地域の人々：新潟は市民プロジェクトが方向性を導く。
- 2015年は潟をベースに展開し、建築家の方々がアートプロジェクトに参加。例えば、浮島に渡る橋を舟を三艘つなげているアート作品では、潟ぶねの作り方を建築家が教えてもらい、芸術祭終了後は、舟を地域に寄贈。地域は、潟ぶね体験の舟として利活用している。
- ∴2018年度開催予定とされる佐渡、新潟、越後妻有という三つの芸術祭が県内で開催されれば素晴らしく、移動も含めて楽しめる！
大地の芸術祭は里山が舞台。水と土の芸術祭は港町・田園が舞台。
両方の要素を併せ持っているのが佐渡であるという印象である！

▼文化現場代表/プロデューサー 小川弘幸氏 第5回「芸術祭のつくりかた」講座にて



【出典】公式サイト <http://www.mizu-tsuchi.jp/>

▼さどの島銀河芸術祭の拡大解釈の可能性について①

◆アートとネイチャーは対義語である。

⇒アート（新たに用意する数十カ所）のみならず、今ある佐渡の資産を有効に活用する！ ∴拡大解釈する！

Art

**Natural
Art**

**Artificial
Nature**

Nature

例

世阿弥の彼岸ポート
葦舟(よしぶね)
NAMI映像作品
版画村美術館
他インスタレーション



相川消防署のムカデ足アート
35+1の能舞台、寺社仏閣
300有余の集落景観
北沢浮遊選鉱場
大間港のローダー橋



小倉などの棚田
里山の人工林
登山道沿いの草花
田んぼアート
さどんぼ



新潟大学演習林の天然杉
夫婦岩や人面岩など
大野亀&二ツ亀
平根崎波蝕甌穴群
断層などのジオスポット



▼さどの島銀河芸術祭の拡大解釈の可能性について②

◆芸術と自然は対義語である。

⇒アート（新たに用意する数十カ所）のみならず、今ある佐渡の資産を有効に活用する！ ∴拡大解釈する！

芸術

⇒さどの島銀河芸術祭

自然的
芸術

⇒世界遺産暫定リスト

芸術的
自然

⇒世界農業遺産

自然

⇒日本ジオパーク

インスタレーション&
芸能など元々ある芸術



7つの構成資産
浮遊選鉱場、大間港etc



環境共生型農業
水田/棚田とトキ



全島10のジオスポット
奇岩や断層や自然風景



▼(世界的)三資産プロモーションとは・・・

◆2018年度開催予定の佐渡/新潟/越後妻有：三つの芸術祭

◆ジオ(大地)の上に、生き物と人々の暮らしがあり、歴史や文化が生まれたというストーリー。



▼佐渡市 さとの島銀河芸術祭
=アート・セレブレーション(仮称)
=60日間の芸術祭

AC

EC
アース・セレブレーション
=3日間の音楽祭

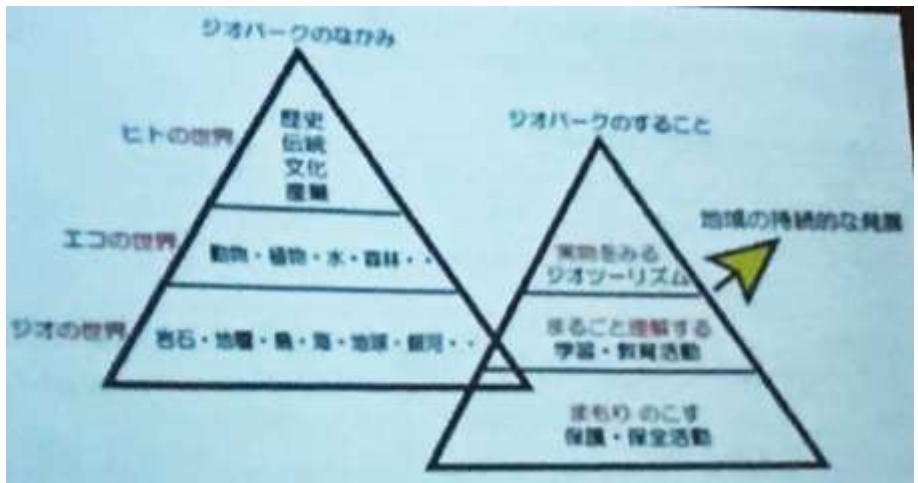
▼十日町市/津南町
大地の芸術祭



▼新潟市
水と土の芸術祭



←連携→
三つの芸術祭が連携
①里山/港町/田園が舞台の芸術祭！
②移動も楽しめる！
③インバウンド対応！



【出典】佐渡市 社会教育課 ジオパーク推進室

▼関原剛氏『佐渡にはたくさんの「クニ」がある!』

◆2017年7月3日(月) @トキのむら元気館・コミュニティホール

- ・総務省「地域運営組織の形成及び持続的な運営に関する研究会」として、国を挙げて『地域運営組織』なるチームを形成することで、地域社会を維持していく仕組みづくりが必要であるという方針。
- ・NPO設立17年目の地域運営組織に、12の機能が結果論的にできた。
- ・地域が自前の事務屋をやるというスタイルが必要。
- ・高齢者の方が健康長寿になれば、数億円のお金を介護・医療分野等で節約できる。
- ・うかうかしていると学ぶべき先生がいなくなってしまう状況で、猶予期間はそれほどないので、「クニ」組織（地域運営組織）を活用して、下記三点の能力を持つチームが必要である。

①つなぎ能力 / ②事務能力 / ③マネジメント能力

- ・FIT (Foreign Independent Tour) : 海外個人旅行は重要。
地域内に、毎日15人くらい観光客がいる状況をつくるべし。
- ・ハレとケの日について、イベント開催に頼りすぎずに、むしろ、ケの日を大切にすべきではないか。
- ・NPO法人かみえちごととしては、専門家としての知識ではなく、網羅的な知識が必要とされる。

①町内会は町内会のことをやる

②川の流域に桜を植えるなど系全体のことはNPOがやる
上記二種類の住み分けができていたので、補完する仕組みができた。

∴ 佐渡市における『地域運営組織(RMO)』を形成しようとするとき、適正な規模としては、23の小学校区が最も近いイメージだと思う。

▼ NPO法人・かみえちご山里ファン倶楽部
関原剛氏「地域づくり公開セミナー」にて



地域運営組織・12の機能					
1 生活保全	2 民俗文化 景観遺産 維持保全	3 高齢者 健康年齢 伸長	4 小さな 公共交通	5 児童生徒 地域教育 リターン教育	6 自然保護 農地林地 保全
7 地域資源 産業創出	8 公的事業 委託運営	9 住還者 創出事業 都市交流	10 塞ノ神 機能 窓口機能	11 総合事務 機能 つなぎ機能	12 人材育成 機能

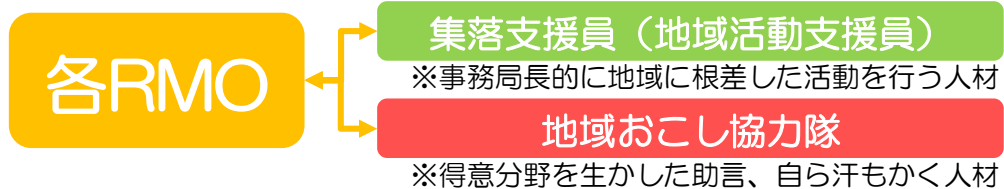
【出典】2017年度佐渡RMOづくりワークショップ資料

▼ 『地域運営組織（RMO）』の佐渡での規模感について 39

◆佐渡市における『地域運営組織(RMO)』

適正な規模としては、23の小学校区が最も近いイメージ。

⇒『地域運営組織(RMO)』に集落支援員（地域活動支援員）と地域おこし協力隊を招聘、配置するという考え方



▼庭先集荷等の素晴らしい取り組みをさらに向上

市民農園や遊休農地等の活用が期待さる。学校給食に遊休農地を活用した野菜を提供できないか。アクティブシニア層をメインターゲットとし、学校給食用の野菜を遊休農地で作ってもらう。売り先は決まっており、佐渡の子どもたちが美味しく食べてくれるということに生き甲斐を見出すことができる。地産食材供給の現状(地産率3割)を打破することができる取り組みと考える。

▼23の小学校区で考える農地の情報化、最適化

農地の情報化・最適化が必須。農業委員・農地利用最適化推進委員の皆さんのご協力や23の小学校区単位で実行する地域情報化を地域おこし協力隊の招聘により実現できないか。



【出典】佐渡市教育委員会作成：小中学校学区

▼【画像①】和歌山県田辺市の行政視察



「田辺市熊野ツーリズムビューローの構成図
こうした組織構成は、全国的にも珍しく注目を集めている。また、田辺市では、「官民協働」で田辺市の情報を世界に向け発信する取り組みとして位置づけている。
出典)田辺市熊野ツーリズムビューローHP(2010/03/30参照)
<http://www.tb-kumano.jp/booklet/TB-kumano.html>

▲5つの観光協会とツーリズムビューローの関係性



「田辺市熊野ツーリズムビューロー事務局の皆さん
左端は、国際観光推進員のブラッド・トゥル氏、外国人の起用が目玉とされ、メディアの取材を多数受けていることから、それが田辺のPRにもなっているようだ。



「熊野古道
外国人の個人旅行者で熊野古道を訪れる人は、4～5日かけて歩く人が多い。
出典)田辺市熊野ツーリズムビューロー

▲ビューロースタッフの皆さんと熊野古道



「『指差し会話帳』の一部「温泉旅館「上御殿」」のものの支払い方法、食事の時間・場所・温泉の入り方等の説明が日本語と英語で書かれている。このほか、宿の歴史や食事のメニューを説明したもの等もある。
出典)田辺市熊野ツーリズムビューロー資料

▲『指差し会話帳』と外国人向け総合パンフレット



「田辺市・熊野の総合パンフレットの一部
日本地図一関西地方の地図一紀伊半島の地図と、日本の地理を知らない外国人にも分かりやすいようになっている。
出典)田辺市熊野ツーリズムビューローHP(2010/03/30参照)
<http://www.tb-kumano.jp/booklet/sacred-kumano.html>



「現在の田辺熊野TBの英語版のHP
パンフレットやマップはダウンロードすることができるので、印刷したものを持って現地を訪れる外国人旅行者もいる。

出典)田辺市熊野ツーリズムビューローHP(2010/03/30参照) <http://www.tb-kumano.jp/index.html>

▲ビューローの英語版HPと日英表記のパンフレット



「田辺市・熊野の総合パンフレット(日英併記)
マップの英語版も日英併記にして、外国人旅行者が日本人にたずねても分かるようにしてある。



＜田辺市へのアクセス＞
 ■飛行機の場合
 羽田空港から南紀白浜空港まで約70分、南紀白浜空港から田辺市までバスで約40分
 ■電車の場合
 新大阪駅から紀伊田辺駅までJRで約2時間
 ■バスの場合
 大阪駅から紀伊田辺駅まで約3時間



▼サンティアゴ・デ・コンポステラ市観光局とビューローの共同会見



▲田辺市へのアクセス



↑プレスツアーの様子
 田辺熊野TBとして、戦略的に行うものもあれば、国や県のプレスツアーのサポートを務めることもある。



↑ジャンボポスターの掲示(都市部観光宣伝事業の一環)
 JR大阪・天王寺駅構内に掲示された。市内の目玉となる観光資源が立体に描かれているインパクトのあるデザイン。

出典)田辺市熊野ツーリズムビューロー

↑サンティアゴ・デ・コンポステラ市観光局と田辺熊野TBの共同記者会見の様子
 時代衣装を身に付けて行われた記者会見は多くの関心を集めた。また、共同で作成されたパンフレットは、サンティアゴ・デ・コンポステラ市観光局を通じて広く配布された。その成果もあって、ここ2年間はスペイン人の旅行者が多くなっている。

出典)田辺市熊野ツーリズムビューロー



↑外国人旅行者への対応のレベルアップを図るワークショップの様子
 左が熊野本宮大社を対象としたもの。右が宿泊施設対象のもの。参加者の中には、以前は外国人旅行者に対する抵抗感があったものの、ワークショップ参加後は、大変な中楽しさを見出して受け入れてくれるようになったところもある。

出典)田辺市熊野ツーリズムビューロー

▲プレスツアーやジャンボポスターの様子

▲レベルアップを図るワークショップの様子

▼【画像③】和歌山県田辺市の行政視察



▲委員長によるご挨拶と担当者によるご説明



▲紀伊田辺駅隣り田辺市観光センター内観



▲紀伊田辺駅隣り田辺市観光センター外観



▲田辺市熊野ツーリズムビューロー受付前

▼【所感①】和歌山県田辺市の行政視察

▼紀伊田辺駅隣にある一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー（以下ビューロー）の皆さまよりヒアリングした概要について

世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』、通称“熊野古道”。平成27年には『みなべ・田辺の梅システム』が、世界農業遺産（GIAHS）に認定され、世界遺産と世界農業遺産の二つの冠を保持している。

ビューローは田辺市内五つの観光協会とは別組織で、

インバウンド（外国人観光）に特化した持続可能な背伸びをしない観光スタイルを確立。

欧米豪を中心として戦略的に海外メディア向けプレスツアー等を開催しながら、

外国人個人観光の熊野古道ウォーク＝トレイルを実践。

また、受け入れる地元の民宿やガイドの方々には、ワークショップを開催しながらお困りごとをヒアリングして、指差しだけで宿内の案内ができる紙面を作ったり、地道な努力を重ね続けておられるとのこと。

今後立ち上がる佐渡版DMOの在り方について大いに参考となった。

▼紀伊半島の奥地という言わば『陸の孤島』の環境を逆手に取った戦略について

東京・大阪のメインルートからわざわざ行かないとたどり着かない場所であることで、伝統文化を守るフィルターになったと解釈しているとのことである。

ゴミのポイ捨て等がなく、文化財を守る意識の高い人のみか来てくれるそうである。

結果的にDMO・DMCの先進地となり、約10年間で昔の良さを取り戻すことができた、とのこと。

⇒半島≠島として、佐渡としても同様の解釈をした上で、観光のお客様のターゲティングおよび誘客を行う必要があると感じた。

▼世界的にも珍しい『道』の世界遺産について

巡礼地として歩くことでのみ感じることができる。

逆に言えば、『道』しかないということに全ての心血を注ぎ、

インバウンド観光に特化した観光地域づくりを推進していると言える。

課題としては、道は荒れるが、文化財であるために簡単には直せないということだそう。

CSR（企業の社会的責任）事業として、首都圏等の企業の関係者による古道の修繕等の活動も始まっている。

また、『道』の世界遺産として共通する、

スペインの世界遺産『サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路』

とのスタンプラリー等による連携・国際交流等も積極的に行っている。

▼ありのままのおもてなしを実践

平成17年（2004年）に世界遺産登録、世界遺産に向けて観光客が増えてきた。

2015年で宿泊：44.3万人泊を記録、2016年はそれを上まわっている。

熊野古道の民宿は、無理にスタイルを変えない。

ベッドなどは設置せず、畳・布団・風呂・食事など日本の文化を体験できるようにしている。

ただし、トイレについては洋式水洗化を進めている。

和歌山県として水洗化に積極的で、全県で数十億の予算、

田辺市としても連携する方針で約3億円ほどの予算を割いた。（公共トイレの水洗化を県と市とで折半）

課題としては、ハイエンド層に対応できる宿泊施設がないことだそうだ。

（建設の計画はある、とのことである。）

▼早期にビューロー事務局にカナダ人を採用した戦略について

ALT（英語指導助手）として地元の小中学校に勤務、熊野の歴史等を熟知している

ブラッド・トウル氏をビューロー設立からまもなく職員として採用した。

インバウンド対応の抜本的な見直しのため、

①観光に関する情報収集と整理

②現地のレベルアップ

③観光プロモーションを展開

によって世界に開かれた観光まちづくりが始まった。現在は、日・英・中・韓・仏の5カ国語に対応したホームページ、パンフレット、マップ、ポスター等を通じて情報発信に努めている。

▼2年間で延べ60回開催されたワークショップの内容について

研修会を複数回開催し、関係者の意識を高めるための努力をしてきた。

ブラッド氏を始めとするビューロー事務局スタッフが内容の改善を行なってきた。

まずは『皆さんのお困りごとはありませんか？』から始めて、

関係者の方々と膝をつき合わせて話し合うことで、改善点やアイデアを整理し形にする努力を続けてきた。

その中で指差しツールを作成し、英語が話せなくとも外国人とのコミュニケーションが取れる工夫等を

数多く行なっている。

▼ビューローと観光協会の関係性・役割分担について

田辺市は、2005年（平成17年）5月1日に、日高郡龍神村・西牟婁郡中辺路町・大塔村・東牟婁郡本宮町と合併し、5つの市町村によって田辺市が発足した。

観光協会は、旧市町村の5つのままであり、各地域の特性を生かした観光PR活動等をそれぞれが行っている。一方、ビューローは5つの観光協会に横串を刺すように連携し、インバウンド観光の対応に特化した組織として運営しているため、業務の重複や軋轢等は特になく、5つの観光協会との住み分けはできているそうである。

▼お客様と宿泊施設とをつなぐビューローの役割について

ビューローの決済は、全てクレジットカード決済である。システムを一から構築し、オリジナルシステムで運用。全て事前予約として預かり、いわゆるドタキャンについては、キャンセル料を差し引いてお客様にお返りする仕組みを導入している。

手数料については、一般のエージェントが約15%前後であることにに対し、ビューローは10%と、約5%ほど手数料を少なくしているそうである。

また、ビューローは、宿泊施設の部屋在庫を抱えないスタイルであり、予約が入った場合は、ビューローは、宿泊施設へ電話・FAX等でやりとりをして、在庫確認および予約決定をしているとのことで、言わば効率の悪い大変手間のかかる作業を代行していると言える。

▼インバウンド観光に必要不可欠なwi-fiの整備状況について

和歌山国体開催（2015年）との兼ね合いもあり、行政主導により県と市の連携により設置拡大を進めている。具体的には県が1/2補助を行い、商店街や宿泊施設等の民間にwi-fiの設置を推奨している。

お客様を受け入れる上では必要不可欠であり、SNSですぐに情報発信ができるようにすることの重要性を鑑み、田辺市としても積極的に推進しているため、ほぼ完了しているという状況である。

▼インバウンド観光を突き詰めると、バリアフリー・ユニバーサルデザインへとたどりことについて

今の課題は『ニッポン』対応。

外国人観光客が相対的に増加することで、巡礼地の熊野古道に日本人があまりいないという状況になっている。そこでアクティブな30代の日本人観光客を呼び込む戦略を考え、工夫を始めつつある状況である。

▼佐渡の国仲平野と江戸の山手線のスケール感について

◆佐渡は奇跡の島

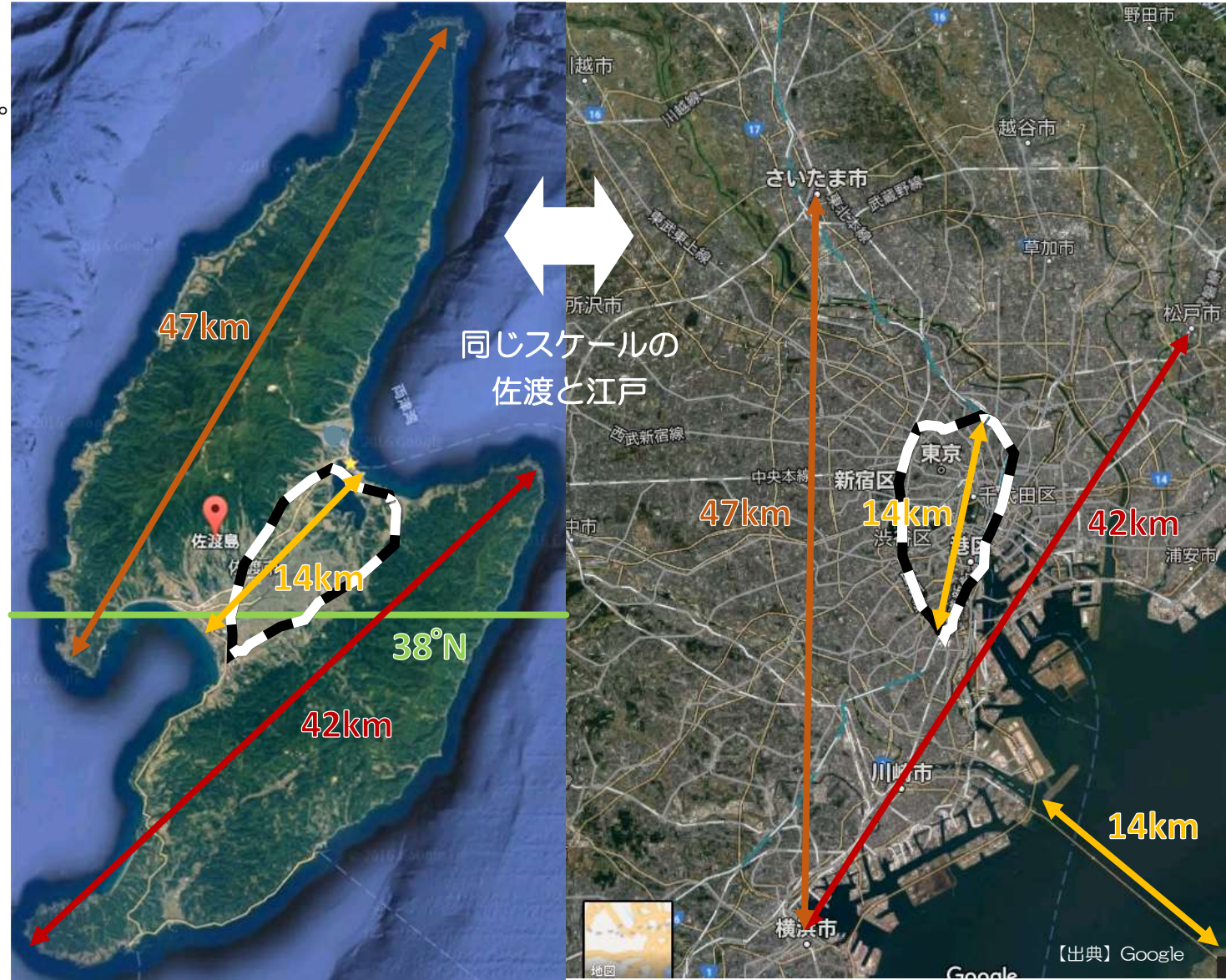
【一島二山型】の島
佐渡はプロポーションの良い島。
設計したくてもできない島の
デザインである。

◆国仲平野⇄山手線について

佐渡市の国仲平野は、山手線の
スケール・形状と類似。
山手線の1周は約34.5km、
約1時間で1周。
国仲平野の環状道路も、
約1時間で1周。

山手線内の面積は約63 k m²。
その中に約 88 万人(2005年)
もの人が在住。山手線内の人口
を佐渡全島約57,000人の人口
と比較しても、およそ15.4倍
もの人が住んでいる。

※山手線は、東京23区中
11区内を走っている。



▼モノの見方、ヒトと接する考え方について

◆地球の表面について ⇒ 陸地：29.2%、海洋：70.8%

地球の一周：40,000km、地球の半径：6,400km、地球の表面積：5.1億km²



佐渡→



←佐渡

地球は、海ばかり！？

Think Globally,
Act Sadocally

地球は、陸ばかり！？

Google 画像 ©2016 Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO, Landsat, PGC/NASA, U.S. Geological Survey, IBCAO, 地図データ ©2016 Google, INEGI

▼みんなちがって、みんないい / 金子みすゞさんの詩

◆金子みすゞさん（1903年～1930年）の詩。

▼わたしと小鳥とすずと

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのよう、
地面（じべた）をはやくは走れない。



金子みすゞ
(1903～1930年)
【出典】wikipedia

わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのよう、
たくさんのうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

⇒それぞれの良いところを認め、多様性を大切にせよ。
と私は解釈します。

室岡が考える佐渡の最大の魅力＝『集落多様性』

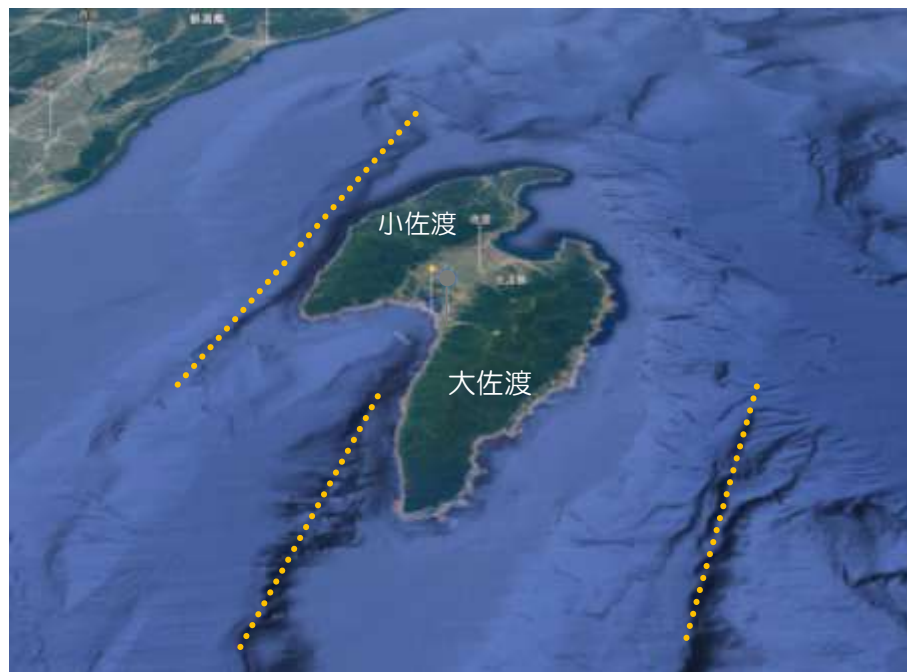
⇒大地の二本のシワが地形にも多様性を生み出した。

⇒農村、山村、それから漁村

みんなちがって、みんないい。



日本列島は、プレートによってつくられた大きなシワ。佐渡は二本のシワ。



【出典】Google Map 3D ⇒大佐渡/小佐渡と平行に海溝が走っている。